平成 31 年度

独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業
子育てを家族で支える三世代同居・近居
しやすい環境づくりに資する事業

じぃじもばぁばもね♪家族みんなの子育て応援事業

事業報告書

認定 NPO 法人
いわて子育てネット

《目　　次》

Ⅰ　はじめに・・1

Ⅱ　事業概要・・2

Ⅲ　事業報告・・3

１．『じぃじもばぁばもね♪家族みんなで子育て講座』・・・・・・・・・・・・・・・・・6

①初めてママと先輩ママのおはなし会

②じぃじ・ばぁばの初めて孫育て講座

③家族みんなでおたのしみ会　～赤ちゃんのいる生活 ごきげんいかが？

④男性産婦人科医に聞く 初めてパパ講座

⑤ママもパパも赤ちゃんもにっこり♪ライフ~ラクうまごはんとちゃちゃっと家事のコツをゲット！~

２．学生、子育てについて考える・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・24

３．三世代子育てアンケート・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・29

４．子どもも親もじぃじもばぁばも家族みんなが笑顔になるための

三世代子育てシンポジウム・・・・・・・・33

５．成果・・41

Ⅳ　おわりに・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48

Ⅴ　資料・・・49

Ⅰ　はじめに

社会の変化に伴い地域のコミュニティも崩壊し、核家族も増え、孤独な子育てに起因する様々な事象を見聞きします。今、子育て支援の大きな柱になっているつどいの広場などの子育て支援施設では、日々、多くの子育て中の親子にご利用いただいています。社会全体で子育てする機運は高まってはきていますが、子育て親子の様子や子育て相談の内容から地域や家族間での子育て文化の継承が途絶えていることに気付かされることもあります。本来、人間は群れで生活していく習性を持っていると聞きます。身近な家族や祖父母は一番の心強い子育て応援団と思います。その状況を許さない事情もあるとは思いますが、家族や祖父母の関係を見直す機会を探していました。この度、独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成事業「子育てを家族で支える三世代同居・近居しやすい環境づくりに資する事業」を受託し、「じぃじもばぁばもね♪家族みんなの子育て応援事業」で改めて子育てと三世代の関係を考えてみたいと思います。

事業推進にあたりご協力いただいた講師の皆様、各機関、企業の皆様に心から感謝申し上げます。

認定 NPO 法人いわて子育てネット
理事長　村井軍一

Ⅱ　事業概要

ライフスタイルが多様化し家族の在り方も様々な現代において、すべての人が三世代家族で暮らし子育てをすることは現実的ではない。しかし、子どもが心豊かに健やかに育ち、また子育てに関わる親世代・祖父母世代も安心感を得ることや、充実感を覚えながら暮らすことができる三世代家族での子育てを支援し機運を醸成していくための事業である。

現在、子育て支援施策が豊富になってきているが、子育てなどの追体験できる機会が激減していることが、初めて我が子を持った時の不安や戸惑いを抱えている母親が多く存在し、子どもの生育への影響が懸念されている。

そのため、日ごろの不安やストレスの解消すること、第三者を交えた会話の場に参加することで、家族内の互いの気持ちを知るきっかけづくり、家族それぞれが漠然とした不安を一つずつ取り除いて、出産・育児への心構えと方法を知るこことで、家族全体が安心して子育てに臨むことができるために講座を行う。

また、少子化や核家族の増加、地域コミュニティの希薄さに伴い、子育てのみならず生活力、コミュニケーション能力をつけるための家族間の子育て文化が伝わりにくくなっている。

そのために祖父母世代が現在の子育てを取り巻く環境や世話の仕方などを知る一方で、培ってきた子育て文化を若い親世代に伝承・共有するために、第三者を交えて話す場を設け、多世代で子育てをする機運を高めるためにシンポジウムを行う。

シンポジウムをさらに進化させるために、祖父母世代と親世代のコミュニケーションに関する客観的なデータを集めるための三世代アンケートの実施、また、子育ての受け手側であり、これから結婚し子育てを担う高校生たちに、ライフスタイル・結婚・子育てをイメージするきっかけづくりにしてもらうために子育てについて取材を行ってもらう。それぞれの結果をシンポジウムで発表する。

シンポジウム当日は、近郊の子育て応援企業と共に、三世代に関するイベントを同時開催する。

『じぃじもばぁばもね♪家族みんなで子育て講座』			**125 名**
9 月 24 日（火） 10:00～11：30	初めてママと先輩ママのおはなし会 講師：下川玉枝氏（助産師）	もりおか子育て応援プラザ ma*mall	36
10 月 2 日（水） 13:30～14：30	じぃじ・ばぁばの初めて孫育て講座 講師：髙見静子氏（助産師）	もりおか子育て応援プラザ ma*mall	5
10 月 14 日(土) 10:00～12：00	0～1 歳の第 1 子を育てている家族交流会 （いわて親子フェスティバル内　イベントとして開催） 講師：三浦典子氏（保育士）	いわて情報交流センター アイーナ	15
10 月 20 日(日) 10:00～12：00	男性産婦人科医に聞く 初めてパパ講座 講師：村井軍一氏（産婦人科医）	いわて情報交流センター アイーナ	9
11 月 9 日（土） 10:00～11：30	ママもパパも赤ちゃんもにっこり♪ライフ ～ラクうまごはん～　みんな満足時短レシピ 講師：小豆嶋祥子氏（管理栄養士）	いわて情報交流センター アイーナ	9
11 月 9 日（土） 10:00～11：30	ママもパパも赤ちゃんもにっこり♪ライフ ～「ちゃちゃっと家事」のコツ、ゲット～ 講師：岩舘さゆり氏（ライフオーガナイザー®）	いわて情報交流センター アイーナ	7
11 月 26 日(火) 10:00～11：30	初めてママと先輩ママのおはなし会 講師：本舘真梨子氏（助産師）	もりおか子育て応援プラザ ma*mall	30
11 月 27 日(水) 10:00～11：30	じぃじ・ばぁばの初めて孫育て講座 講師： 高木氏、山崎郁子氏（江碕グリコ株式会社）	もりおか子育て応援プラザ ma*mall	5
1 月 26 日（日） 13:30～14：30	男性産婦人科医に聞く 初めてパパ講座 講師：村井軍一氏（産婦人科医師）	いわて情報交流センター アイーナ	9
学生、子育てについて考える			**50 名**
12 月 7 日	スタートアップミーティング	いわて情報交流センター アイーナ	8
12 月 21 日	子育て世代へのインタビュー		19
1 月 6 日	子育て世代へのインタビュー		13
1 月 13 日	データ分析、発表準備		5
1 月 26 日	発表準備		5
子育てアンケート			**99 名**
子どもも親もじぃじもばぁばも笑顔になるための三世代子育てシンポジウム＆応援イベント			**226 名**
2 月 8 日（土） 13:30～15:45	■基調講演「子どもの育ちと関係の多様性」 講師：高濱裕子氏（お茶の水女子大学名誉教授） ■高校生による報告発表 ■パネルディスカッション「子どもも親もじぃじもばぁばも笑顔になるために」	いわて情報交流センター アイーナ	53
2 月 8 日（土） 10:00～16:00	子育て　応援イベント 協力：近郊子育て応援企業	いわて情報交流センター アイーナ	173
		全体参加者数	**500 名**

Ⅲ　事業報告

１.『じぃじもばぁばもね♪家族みんなで子育て講座』

①　初めてママと先輩ママのお話し会

＜1 回目＞

開催日時：令和元年 9 月 24 日（火）　10:00～11:30

開催場所：もりおか子育て応援プラザ　ma＊mall

講　　師：下川玉枝氏（助産師）

参加人数：　36　名（講師 1 名、事務局 3 名（両川、梅村、河本）、受講者 2 名、先輩親子 15 組）

内　　容：

10：00 ～ 10：55　講師講話

10：55 ～ 11：10　ママサロン見学

11：10 ～ 11：30　質疑応答

■講師講話

出産前のキモチ

生まれてくる『ワクワク』感と、『不安』感が入り混じっている状態。

期待感と緊張感が混同している状態で過ごしている人が多い。

期待感が極端に高いと、育児でのトラブルが生まれやすい

出産後に、育児の理想とギャップがやってくる。

妊娠の区切りとして出産で 1 回目の区切りが存在する。

悩みや気づきは、問題が解決したり、子の成長によって、変化していく

発達において「方程式」がある。個人差があるので、どこにアプローチをかけるべきかは、情報を整理する必要がある

困ったときに、何をするか

理想と現実を見つめる

相談する場所をもつ（夫婦間、親、家族、地域、専門家）

心構え：親と子のキャラクターがある。

親が変われば、子は変わる。変わろうと思うかどうかが重要。

子どもに思いを寄せることが大切

泣く：満足感なのか、満腹なのか

授乳させることで、泣き止ませることはできるが、本当の訴えはどこにあるのかを、知ろうとする姿勢が大切

乳歯が生える：授乳による嚥下から、咀嚼の体験を増やすようにしていく

授乳方法によって、咀嚼ができる口・顎の成長に差がある

咀嚼：離乳食の進捗に、影響する。

口と舌の使い方は、抱き方、授乳の仕方によって違う

学習する：一つの体験が１か月程度続くと『〇〇すれば「お母さんは〇〇してくれる」』
という、子供にとっての方程式ができあがる。
泣く：母さんが来る、抱っこする、授乳するなど。
気持ちの切り替えの体験をどのようにできるか
「抱っこでしか寝られない」、「授乳がやめられない」「食べない」など、親が様々な理由で、赤ちゃんが気持ちを切り替える体験ができない可能性がある。

■ママサロン見学

１歳未満児の親子サロンにて、親子の様子、読み聞かせ、手遊びなどを見学。

■質疑応答

祖父母との関わり
積極的に孫育てに参加するためには「気遣い」が大切
手伝ってほしいときに手伝うことができる環境を作る
親世代が育児に自信が持てるような関わりをする
毎日が新しい学びをしている親世代
親世代が自立できることに注目する

母乳の話
授乳方法については、色々な方法がある。
母乳が出ないことや、理想とのギャップに落ち込んでしまう。
様々な方法があること、個人差があること、悩みへのアプローチは千差万別
夜中に何度も母乳をあげることは、母子ともに寝不足になる。
どうしたら、改善できるか、寄り添うことが有資格者の仕事

有資格者として
「どんな子育てをしたいか」をじっくり聞く。
相談者が「考える」「選択する」「責任を持つ」ようになるための窓口
その人の思いをコーディネートする必要がある。
一つの方法に固執せず、相手にあわせられるだけの情報を蓄えておく

＜2 回目＞

開催日時：令和元年 11 月 26 日（火）　10:00～11:30
開催場所：もりおか子育て応援プラザ　ma＊mall
講　　師：ＮＰＯ法人まんまるママいわて　本舘真梨子氏（助産師）
参加人数：　36　名（講師 1 名、事務局 3 名（両川、細田）、受講者 2 名、先輩親子 15 組 30 名、実習生 2 名）
内　　容：
10：00 ～ 10：55　講師講話
10：55 ～ 11：10　ママサロン見学
11：10 ～ 11：30　質疑応答

■講師講話

働き方

現在 NPO の運営として週 2 回勤め、それ以外は子育てをしている。

知り合いの紹介で、空いた時間で、やってきたことを生かせるように仕事を始めた。

とても必要な産後ケア

現在は花巻市からの委託を受け、週 3 回デイケア実施。

お母さんたちはおっぱいの相談や卒乳や離乳食などあらゆる相談にくる。

花巻や北上ではお産ができる病院が減っている。助産師だけではできない。万が一に備えて医師が必要だが、なかなか状況は改善していない。

費用について

岩手だと基本タダという考え方が強い。安いと言われることも、料金が高いと言われることもあり、費用に対してはギャップがあると感じている

母乳について

昔は、「完全母乳」という言葉があった。お母さんではないと苦しめてしまう言葉だから嫌いだった。今はミルクの助けがないといけない例もあるという風に変わってきた。

■参加者の話

二人目だけど違いもあり、慣れていない。久々の感覚。産院も変えたので、カルチャーショックだったり、指導も違う。忘れてしまっていて、情報収集しながらやっている感じ。

4 月から仕事に復帰するので、母乳をやめていきたいと思っている。産後すぐ、兄弟の行事と被り、トラブルは最初 1 か月たたないくらいに乳腺炎に 3 回かかった。

1 週間前から夜間は断乳はじめたが、1 回は確実に起きる。夜起きても 10 分かからないで寝ていたが最近は 2 時間泣き止まず、こもっているのはだめだと思った。

情報収集は、友人も仕事しているし、近くに子どもと同年齢がいないので、家族で過ごしている感じ。実家は花巻なので、すぐに会うというわけでもない。

里帰り出産もせず、助けてもらうことを断った。帰ったら逆に自分が疲れると思ったから。

両親が近くにいるから困ったときは助けてもらおうと思っている。

■質疑応答

寝返りをしなくなった。寝返りがえりはする。健診では問題ないと言われた

人それぞれ。寝返りをしたときに視点が変わって怖かったなどあったのかもしれない。

飛行機が好きな子もいるし、子どもそれぞれの感覚がある。

起床時の胸の張りについて

母乳を飲まなくなったからといって、すぐにやめることはできない。一度出たおっぱいのアクセルはすぐ止められず、必要な量を作っている。

がっちり張った状態が続くと、たんぱく質が作られて「もうこの量を作らなくてもいいね」とサインが出る。そのままにするとトラブルを起こしてしまうから、がっちり張った状態から軽く母乳を絞り出すのを続けていくと、だんだん作られないようになっていく。

断乳・卒乳の関わり

子どもにとっておっぱいは精神安定剤。昔はからしを塗ってもうおしまいとしていたが、そうすることはお母さんの拒絶と捉えられて、赤ちゃんにとっては、よりどころがなくなり不安が大きくなる。2 歳くらいの言葉が分かる話せるようになってきた子なら、例えばカレンダーにこの日にやめるよーと目標を書いて、1 日終わるごとに×を書いていくとか、最近は卒乳パーティーというのもある。その子が大好きなものをいっぱい食べて、家族でお姉ちゃんお兄ちゃんになったことをお祝い・喜ぶ。これにはママ以外の人の協力が重要。ママから、パパやおばあちゃんと夜を過ごしたらり、パパの連休に合わせて行う人が多い。

アイーナで 0～3 歳の子がいる親にアンケートを取ったとき、一番うれしいのは成長を感じたとき。その時に子ども本人は何となくできてしまったことでも、身近な大人が「すごいね！」と言葉と体で喜ぶことによって、それを子どもは受け止めてうれしいと思う。だから伝えることが大切。

■ママサロン参加者との交流

里帰りをしたら自分が疲れると思ったから里帰り出産もせず、助けてもらうことを断った。東京に母がいて、自分は千葉に住んでいる。近くにいるから困ったときは助けてもらおうと思っていた。

＜所感＞

マモールが開所 3 年目の施設であり、子育て支援単独施設であることから、場所についての認知度がまだまだ浸透していない様子もあり、チラシ等に地図を盛り込むことを検討したい。

開催場所を個室にしたこともあり、なんとなく入りにくさを感じたので、施設側の受付での声掛け等の配慮に助けられた。

今回、講師の助産師の方々は、自分の実体験と、助産師の知識、地域の話も交えて、育児の即戦力になる話題を提供していたいたことや、参加者が少なかったことによって、じっくり参加者の話に耳を傾けていた姿が印象的であった。

初産の方はもちろん経産婦も「助産師だから」、「二人目・三人目のママだから」といった、その人の職業や体験だけで、支援を希薄にしてはならないと感じる。座学とは違う、リアリズムな子育てや、二人目三人目のブランクや子どもの個性などによって、ママたちには、新たな不安や悩みを抱えている。それぞれの状況や環境を踏まえる難しさ、きめ細やかな産後ケアの必要性を実感した。

ママサロンはとても多くの人たちが参加していた。その輪に入って一緒にやっていても、その場の雰囲気を楽しみつつ別のことをしていても、まったく構わない様子で、進行していくのは、親子をありのまま

に包み込んでいるようで、とても良い雰囲気であった。

②　じぃじ・ばぁばの初めての孫育て講座

＜1 回目　沐浴＞

開催日時：令和元年 10 月 2 日（水）　10:00～11:30
開催場所：もりおか子育て応援プラザ　ma＊mall
講　　師：髙見　静子氏（日赤助産師）
参加人数：　5　名（講師 1 名、事務局 2 名（両川、河本）、受講者 2 名）
内　　容：
10：30 ～ 10：35　趣旨説明、講師紹介
10：35 ～ 11：45　沐浴指導
11：45 ～ 12：00　質疑応答

■指導内容
入浴の必要性
　　清潔にする、新陳代謝を良くする。スキンシップ、全身の観察。
物品の選び方（ベビーバス）
　　いつまで使うか、ライフスタイルに合っているかに着目して、レンタルにするか、購入するか、譲り受けるかを選択するのがよい
石鹸の選び方
　　固形石鹸の方が洗浄力は高い。泡タイプは詰め替え方法に注意すれば衛生的。洗いすぎると皮膚トラブルになるので気を付ける
注目すること
　　元気かどうか：清潔にすることよりも、健康かどうかを優先すること
　　入浴時間：身体が小さく血の巡りが良いので、長湯は「のぼせ」の原因になる
　　皮膚のバリアが弱くなるので、温度も気を付ける
安全が第一
　　石鹸を付けると、滑りやすい。落としそうなど安全を守れそうにないときは、入浴前に泡石鹸などをつけておき、流すだけにするというのも良い。女性より男性の方が手も大きいので、協力してもらうのもいいのではないか
衣類の選び方
　　これからの冬に向け、着せすぎに注意。衣服で調整するより、室温・湿度で調整する方法も検討してみてほしい。
　　すぐに乳児は大きくなるので、「着ないままサイズアウトする」服が出てくる可能性がある。だからといって長く着られるようにと大きいサイズにすると、赤ちゃんが動きにくくなってしまったり、思わぬケガにつながることがあるので、気を付けてほしい。
■質疑応答

スキンケアの方法

よかれと思っていても、本人に「合う・合わない」があるので、使ってみるしかない。できるだけ大人もストレスのない方法を選択すること。

かぶれの話

お尻だけ「シャワーで洗い流す」ことを実践してほしい。拭くと皮膚がこすれてしまうので、タオルで「水分をとる」イメージ。汚れはできるだけ洗い流すとトラブルは減る。

できるだけ同じ時間で沐浴する理由

赤ちゃんの生活リズムというより、親の生活リズムを整えること、赤ちゃんの次の行動を促すのにちょうどいい。沐浴すると赤ちゃんは、疲れて眠くなったり、哺乳しやすくなる可能性がある。そこは赤ちゃんの個性にはなるけど、気分転換にもなるはず。でも無理はしないこと。

＜２回目　栄養＞

開催日時：令和元年 11 月 27 日（水）　10:00～11:30
開催場所：もりおか子育て応援プラザ　ma＊mall
講　　師：江崎グリコ株式会社　管理栄養士・子育てアドバイザー　高木綾子氏、山崎郁子氏
参加人数：　５名（講師２名、事務局 2 名（両川、細田）、受講者１名）
内　　容：
10：30 ～ 10：35　趣旨説明、講師紹介
10：35 ～ 11：45　栄養指導
11：45 ～ 12：00　質疑応答

■指導内容

母乳とミルクについて

母乳は手厚く助産師から病院にいるときから指導がある。おっぱいケアは早い方がいい。
基本的には、授乳が近くなったら、おっぱいを温める。それ以外は冷やす
乳首の形によっては、搾乳したり、クリームでケアしたり、場合によっては休ませたりする。
赤ちゃんは最初哺乳力が弱いため搾乳して哺乳瓶であげて、自分で飲めるようになってきたら直接飲ますというケースもある。

仕事復帰との関係

お母さんの仕事復帰も早くなっている。母乳＋ミルクからミルクのみに移行することが多い
ミルクをサポート的に使っていくと、10～15 日くらいで哺乳瓶からの飲み方が分かってくる。

ミルクの話

液体ミルクの利用は、祖父母や夜中の授乳が楽になる。
粉ミルクは、色々な形、サイズがある。
メーカーによっても、1 杯当たりの濃度が異なる。経済的か、ニーズに合っているかを見極める。

哺乳瓶と消毒

哺乳瓶はガラスとプラスティックがある。ガラスだと、消毒に強く冷ましやすいが重たい、落とした時に割れるが、使いまわしが利くプラスティックは熱に弱いが色付き（ＰＰＳＵ）だと、値段は少し高いが、180 度までＯＫ。

プラスティックは劣化してしまうため使いまわしがきかない。

消毒方法は、煮沸のほか、液体に浸けるものなど、いろいろある。

ニプルについて。

広口が授乳しやすい。おっぱいに近い形。大きい口で含む飲み方。メーカーによってカットは違う。月齢でサイズを変えている製品は「10 分で飲めるかどうか」に注目している。別な会社はクロスカット法を採用していて、飲む力で出具合が変わるためずっと使える。

ミルクの作り方

手をきれいに洗う。

ミルク缶は蓋にバンドがあるためそれを取って開けてアルミの内蓋を開ける。

スプーンがミルクの粉に隠れているので粉をゆすって触らないようにして取り出す。ミルクはスプーン摺り切りで計量する。

粉を母乳瓶に入れて出来上がりの 3 分の 2 のお湯を入れて蓋をして円を描くように溶かす。熱いからやけどをしないように。その後 3 分の 1 お湯を足す。泡がぷくぷくのところで測らないように、液面で測るようにする。蓋をして溶かす。お湯は 100 度以上・沸騰してから 70 度のものを使う。それから人肌にまでさます。

液体ミルクの使い方

振って、ついているストローをさして曲げて母乳瓶に注ぎ入れる。ストローは飲むためのものではなく、注ぎ入れるためのもの。

料理に使ってもＯＫ。エゴマ油からＤＨＡを取って入れているため、香ばしくていい匂い。

真空パックになっているため空気に触れると酸化して味が悪くなるので開封したら飲み切る。

災害時の液体ミルクの使い方

災害時の備えとして各家庭で保管してほしい。災害時は消毒済みの哺乳瓶があればそれに入れて飲ませる。ない場合は、使い捨ての小さな紙コップに注ぎ入れて、口の当たる部分を折って食事をするときのような体勢にして下唇に当てて一口ずつ飲ませる。水分補給の位置付けで。

食事がとれる子でも、災害時の食事は味が濃いのでミルクで薄めて食べるといい。

ミルクは加熱してもＯＫ。注いでから湯せんで温める。パックを直接温めない。

海外の液体ミルクは茶色っぽく、飲めるものか不安になる。グリコのものは白い色をキープできるように、短時間高温処理をして真空パックにしている。

産後のママにできること

入院中であれば助産師さんがきてくれる。退院後も 1 週間は寄り添って、産後鬱にならないようにしてあげてほしい。病院と家の環境が変わって不安になりやすい。

母体回復のためにも、栄養のある食事を心がけてほしい。

よくあるのは上の子が心配という声。出産時に、子どもの保育を休ませると体力が余ってしまう。そういうフォローを祖父母ができるといい。運動不足になると食事が減って、生活が乱れる。

お母さんの代わりに環境整備をする手助けになるよう、クイックルワイパーを提供いただいた。

授乳期の栄養について

授乳期は、母親が魚を食べるようにして欲しい。妊娠中はＮＧなものも、産後はＯＫな食品はほとんど。過剰摂取にならなければ妊娠中も食べても大丈夫な食材もある。偏らないように取りすぎないようにすることが大事。

お母さんの産後はバランスよく、主食、汁物、主菜、副菜の献立がベスト。サプリもいいが、あくまでもサポートとして活用してほしい。青魚にはＤＨＡだけでなくいろいろな栄養が入っているので、活用してほしい。

マグロなど、大きな魚は水銀を多く含んでいる場合が多く、水銀は胎盤を通してしまうので妊娠中は注意が必要。

加工出汁食品の昆布パウダーなど、成分凝縮されているもの、添加物が入っている場合は過剰摂取になりやすい。そのため可能な限り素材を普通に調理したほうがいい。

■質疑応答

ミルクの飲み残しの処理

捨てる

ミルク缶も、開けてから 1 か月以内で使い切る。蓋に日付を記入する欄あるので活用してほしい。直射日光や、冷蔵庫は避ける。ミルクを清潔に保つために計量スプーンは洗って、缶に戻さず別の容器に入れて保管して欲しい。

電気ポットの調乳用というボタン

100 度でも成分は壊れなくなった。温度が高すぎると糖が固まって溶けにくいから、一度沸騰したお湯を 70 度に冷ます。調乳用があるなら活用してよい。飲ませるときなど、ミルクを冷やすときは水、または水＋氷を入れたコップなどに哺乳瓶を浸けていい。

母乳は 40℃以上もあって温かい。

哺乳瓶の消毒のタイミング、方法、期間

使用直前の消毒でなくていいし、一度消毒したらきれいな保存容器に入れておけばいい。

消毒方法の主流は煮沸と消毒液。電子レンジのタイプは、意外と庫内が狭いから注意が必要だし、プラスチック哺乳瓶は電子レンジ不可のものがある。

哺乳瓶を使ったら、必ず消毒する

哺乳瓶の洗浄と消毒

消毒と洗浄は違うので、使用したら、洗浄してから消毒して欲しい。特に乳脂肪は普通の油分と違うため、特に新生時期は哺乳瓶等専用の洗剤の使用も検討して欲しい。またニプルの先端内側に乳脂肪がたまりやすいので、注意して欲しい。

ミルク対応支援

もし、ミルクの支援が必要なら、お母さん以外が、哺乳瓶で飲ませる練習をした方がいい。

お母さんが哺乳瓶であげると、お母さんのにおいがあって、なかなか飲んでくれない。お父さんや祖父母だと飲んでくれやすい傾向にある。

母乳栄養摂取の子は、ミルクをその分飲まない。混合栄養摂取の子だと、書いてある分作っても飲まない傾向が高い。飲めなくても心配しなくていい。

赤ちゃんは記憶が短いから、体験を続けて、忘れないように練習した方がスムーズになる。

1 か月過ぎると、母乳の成分は脂質が増えて、腹持ちがよくなる。

初乳は免疫があるからしっかりあげるけど、1 か月過ぎたらミルクを使ってもいいかなというお母さんも多いので、検討して欲しい。

食事の支援、食べ過ぎや、体重増加

すぐ体重を戻したいなら、品数多く食べて残すほうがいい。まずは吸収を上げることが大事。ごはんを控えたりするのはよくない。

授乳していて痩せないのは、摂取量と消費量が一致している証拠。1 か月たつとお母さんも動けるから、母乳をあげつつ運動していると痩せてくる。

間食はお菓子ではなく、おにぎりや果物、ナッツ、ヨーグルトがおすすめ。温かいものだと具だくさんのスープを勧める。野菜は血糖値の上昇を抑える。

うまみがあると満腹感を得られる。

納豆に含まれるミネラルは万能。

産後は髪が抜けやすいこともあり、ミネラルの多い海藻を勧める。

妊娠中気を付けていたように産後も気を付ける。

はちみつについて

母親ははちみつを食べても大丈夫。1 歳未満の子どもには厳禁

沐浴について

ベビーバスにお湯を張って沐浴剤を入れて慣らす。ガーゼを浸して顔を拭き、おしりふきでお尻をきれいにしてから裸にして入れる。頭の付け根と首、おしりを持って、ベビーバスに入れる。

身体に沐浴ガーゼをかけると手がバタバタしなくなる。頭から洗っていい。身体を洗うときはガーゼをつかう。

沐浴剤を勧める理由

洗浄に石鹸を使うと滑ったり、流さないといけないという、安全面も考慮して沐浴剤が推奨させている。

一度浮いた脂はつかないようになっている。

背中を洗う際、ベビーバスでうつ伏せにさせるのは、なかなか難しいので、慣れるまでは体を立てて入れてみても良いのではないか。安全第一。

ベビーパウダーについて

最近使わない。その代わり、お風呂から上がって 15 分以内に保湿と保護をする。最初はお母さんからもらった皮脂があるが、脂漏が落ち着くと乾燥しがちになる。ローションタイプがいい。

アトピーは保湿で 3 割軽減されると学会で報告されている。早い時期からの保湿は大事！保湿で紫外線も防げる。

日光浴について

10 分くらい窓越しに、手のひらだけの程度でよい。1 か月健診で外に出る機会があるので、それも楽しみにしては。ビタミン D 不足の解消という観点では特に最近は魚を食べることが減っているので、離乳食でシラスなど魚を食べるなど、意識してみてもいい。

子育て支援、施設の話

大通り、肴町でも、曜日によって様々な産後支援もしている。居住地付近だと、第 3 金曜日に栄養指導で、肴町の施設に訪問しているので、何か不安なことがあれば来て欲しい。

＜所感＞

マモールが開所 3 年目の施設であり、子育て支援単独施設であることから、場所についての認知度がまだまだ浸透していない様子もあり、チラシ等に地図を盛り込むことを検討したい。

開催場所を個室にしたこともあり、なんとなく入りにくさを感じたので、施設側の受付での声掛け等の配慮に助けられた。

座学だけではなく、試飲やグッズの提供をいただき、質問の引き出しが増え、質疑応答では大変盛り上がった。その場にいる人たちで会話をしながら学べる雰囲気でとても良かったので、参加人数が少ないのが残念だった。

参加者からは、退院後の自宅での療養や育児について、具体的なイメージをもっていただけた様子であった。

赤ちゃんのスキンケアについては、すでに学んでいた知識を深めるような質問が出て、どんなことに注目したらよいか、話を聞いて納得した様子であった。

液体ミルクについては、目新しさもあり、試飲すると「おいしい」という感想が得られ、活用方法も知ることで、興味関心を引き出せたようだ。

今回は、祖父母対象であるが、親世代からも声を掛けられたり、祖父母とママの参加があったりしたので、興味関心がある方に提供できる場を今後も検討したい。沐浴とミルクで講座を分けたり、合同にしたりして何回か参加の機会があるようにしてもよいと思った。また、初めての出産育児かどうかに限らず、最新の情報のなか、何に注目して選択するかを、情報過多な中で、選択できるスキルを学ぶ機会の必要性を感じた。

祖父母世代もＳＮＳを使っていらっしゃるので、これまでのようにチラシ配布や新聞掲載だけではない広報の必要性を感じた。

③0～1 歳の第一子を育てている家族交流会

開催日時：令和元年 10 月 14 日（月・祝）　1 回目　10:40～11:10
　　2 回目　14:00～14:40

開催場所：いわて県民情報交流センター　アイーナ

参加人数：15 名（保育士 1 名、事務局 3 名（両川、河本、三浦）、受講者 1 回目 3 名、2 回目 8 名）

＜内容＞

１回目	２回目	内容
10：40 ～ 10：45	14：00～14：05	趣旨説明
10：45 ～ 11：00	14：05～14：30	読み聞かせ・手遊びうた
11：00 ～ 11：10	14：30～14：40	質疑応答

■趣旨説明当団体は、子育て世代に着目し活動している、認定 NPO 団体である。本年度は祖父母も含め、みんなで子育てできる環境を作るための情報発信を行っている。今回は、アイーナの青少年活動交流セ

ンターの共同開催として参加している。

■読み聞かせ・手遊び歌

くっついた

もこもこもこ

ベビーマッサージの歌

■質疑応答

ママがやっているベビーマッサージをうまくできない。（パパより）

ベビーマッサージの歌は、歌詞も音楽も、本当は、なんでもいいと思う。関わるうえでは、楽しさを伝えることや、笑顔や、口の動きを見せる、という一面も必要である。だから、楽しく歌って、ふれあいを楽しんで欲しい。恥ずかしさがなくなるとか、余裕ができたら、ママのやり方を学べばいいのではないか。

冬の過ごし方、服装が分からない（関西から転勤してきたママ）

服装については、室内であれば、暖房が整っているので、北国だからと心配にならなくても大丈夫。むしろ着せすぎに注意してほしい。室内で汗をかいて、外に出たときに汗が冷えてしまうので、その点を注意してほしい。

路面凍結があるので、抱っこの場合は、特に転倒に気を付けたり、車の運転もコツがいる。

中心地や新しい道路では、ロードヒーターが備わっているので気にはならないかもしれない。

天気予報に、「凍結指数」というのがあるので、それを見て水道管の凍結を予防する。

自然遊びについて

自然遊びのいいところは、五感を使えるところ。手や足の感覚は使わないと育たない

冬時期は身体を動かすのがしにくい場合もあり、室内での過ごし方に困っている。

手形・足形で作品を作ると、数年後は成長がわかるので、記念になるのでお勧め。SNS などで、年代別の作品が見られるので、子どもの成長段階がわかり、具体的に「何ができるか」を知ることができる。ただし手形足形を取ることを嫌がる子や、嘔吐してしまう皮膚感覚が敏感な子もいる。少しずつ慣らすには、五感を使わせることを意識してほしい。

スペースと、ストローで息が吐けるようであれば、絵具をストローで吹いて、形を作ったりしても面白い。鼻で息を吸ったり、大きく息を吐いたりといった、呼吸の練習になる。

折り紙やお手玉は空間認識力だけではなく、順番や器用さを育てることができる。

今は自転車で移動しているが、雪が降った場合の対応

近場であることや危険性が低い、恥ずかしくなければソリは、子どもも喜んで乗ってくれる。

車の移動も、雪道に慣れるまでに時間がかかりそうで、運転するか悩む。

確かに、慣れは必要。車移動する場面を想像してみて、パートナーに頼むことや、宅配を頼むとか、子どもを預けるなどして、まずは安心や安全感を大切にしたらいい。

少し気持ちにも余裕がでてきたら、運転してみたり、２歳くらいの子どもにマナーを伝える機会になるので、公共機関使ってみたりしてもいいのではないか。

＜所感＞

参加者の多くが転入者であったので、これからの寒さに対する、移動や衣類の不安な様子から、不安に寄り添えるような季節に合ったイベントや、お話会の必要性を感じた。

五感を使ったふれあいの必要性は、参加者も感じていて、方法や工夫について、興味関心をもっていただけた。

冬時期に限らず、徒歩で遊びにいける場が欲しいという意見があった。時期に関わらず全身運動ができるイベントの開催も検討するとともに、街づくりに関して、機会があれば行政に提案していきたい。

④男性産婦人科に聞く　初めてパパ講座

開催日時：　1 回目　令和元年 10 月 20 日（日）　10:30～12:00
　　2 回目　令和 2 年 1 月 26 日（日）　10:30～12:00

開催場所：いわて県民情報交流センター　アイーナ

講　　師：村井　軍一氏（村井産婦人科　院長）

参加人数：　9　名（講師 1 名、事務局 2 名（両川、河本）、受講者 4 名、乳幼児 2 名）

内　　容：

10：30 ～ 10：35　趣旨説明、講師紹介

10：35 ～ 11：10　講師講話

11：10 ～ 11：40　調査結果からみるママのキモチ

11：40 ～ 12：00　質疑応答、アンケート

■趣旨説明、講師紹介

当団体は、子育て支援の活動している、認定 NPO 団体である。

本年度は祖父母も含め、みんなで子育てできる環境を作るための情報発信を行っている。

この講座では、男性産婦人科をお招きして、パパに知ってほしいことをお話してもらい、日常の子育てやママとの関係で生かしていただきたい。

また、過去の講座や、日々当団体を利用されているママからの意見や、公開されているママに関する統計データを紹介する。

講師は、産婦人科医　村井軍一先生。医師として、4 人の子どもの父親としての体験をお話していただく。

■講師講話

退院時に、パパに伝えていることをメインとして、自分の父親としてのパートナーとの体験も伝えようと思う

医師として

妊娠初期から安定期まで、安定期中、産後で、視点が異なる。虐待は絶対に避けたい

1 日で、ママは状況と立場が変わる。「妊婦」→「産婦」→「褥婦」と一種のパニック状態になる。正常に戻るには、支えが必要

妊娠 32 週から出産までに、胎児は 1000g 程度は大きくなり、体調、体のバランス感覚が劇的に変化する

妊娠安定期に入った後は、統計的に 10%起こりうる危険性を排除したい。

→危険の原因は、感染症

赤ちゃんは羊膜という風船に入っている感じになっているから、子宮の中に感染源を入れないことが大切。温泉やプール、性行為には気を付けてほしい。

パパは、ママの「できていたことができなくなる」という喪失感、驚きを支える能力が必要

祖父母の参加は「(育児を) 支える力」として、重要。パートナー同士だけでは、子育てスキル不足な場合がある。祖父母にも不安はある。主体となることではなく「支え」ること。

産婦人科・小児科などの医療機関はもちろん、保健師の自宅訪問が用意されている。

性生活について

男性と女性では、性差というか、考え方、感じ方が違うのではないか、と思う。女性は、背中をなでる、手をつなぐ、という五感でのふれあいで満足できる場合があるようだ。

早産の危険性や、感染症を保有していう場合は、感染症・流産の危険性が高く避けてほしい

感染症を避けるため、コンドームを使用する

親になるということ

母性や父性といわれるが、育つものだと思う。いわれて、すぐになれるものではない。

→参加者へ問いかけ「親になる心がけってどんなことだろう？」

→本や雑誌、周りの話を聞くなど、勉強する

心構えより「やるしかない」という状況だった

不安があるときは話し合こと

お互い、異なる環境で生活してきたわけだから、すり合わせが大切。

小さなズレを放っておくと、大きなズレになっていくことがある。その前に修正していく。

パートナーに対して何をしたらいいか

パパの思いとして、自分も体験したこと

思いを伝えられない、何をしたらいいかという、感覚

聞き役になるむずかしさ

大切なことは、話し合うということ。一つ一つクリアしていくしかない。

お互いを理解していくことが、まずは大切。

声かけと、行動で示すこと

「なんでもやる」ではなく 1～２個「絶対やること」を決めて、こなす。

責任をもって、取り組める、集中できる方が成功しやすいし、ママが安心してお願いできる環境になる。なんでもやろうとすると、失敗することも多くなり相手の不安を駆り立ててしまう可能性がある。

子育てママは思春期の状態と似ているという推測

今までの体験、情報をどうするかという、情報管理の最中にいる状態。

取捨選択の連続で、もしかしたら「昨日と言っていることが違う」とパパが思うこともあると思う。

初めてのことに一所懸命になるから、支える立場としては、そのほかのことをやっておくというのもよいと思う。

子どもとのかかわり

子どもは３人いると安定する。必ず２：１になるので子どもが何をしているか、わかりやすい。

子ども２人だと、結託して様子がわからないこともある

ママは「初めてのこと」に注目するので、第２子、第３子には余裕が出てくる。支える側としては、その期間は第２子や、第３子とのふれあいが多くなる可能性がある

■調査結果からみるママのキモチ

博報堂こそだて家族研究所のマーケティングデータをまとめた。ママだけでなくパパのデータもあるので、見てもらいたい。

自分が親から受けてきた育児や教育の状況とは、だいぶ乖離しているので、自分たちに合う育児を構築していかなければならない。そのために、ママの視点をお伝えする。

マズロー（アメリカ合衆国の心理学者）の欲求分類・満足度

まず、参加者に記入してもらい、形を確認する。たぶん、ママも出産前はパパと変わらない。

でも、子育てに入ると、バランスが崩れる。

「生理的欲求」は１割強、「安全欲求」は約３割、「社会的欲求」「承認欲求」は５割前後、「自己実現欲求」は約６割が満たされていない。

子どもの年齢によっても、差が出る。

「自分がしたいこと」と「子どもがやりたいこと」の優先比率は「子ども優先」が約７割。

人はバランスが崩れると「回復しよう」と試みる。

ママの本音をみると、バランスが崩れた欲求を満たそうとする行動や意見ともとれる。

ママが充実を感じるのは、「子供と接する時」「子供の成長を見て」「楽しく過ごせている時」「家族の時間が取れる時」など。

「一番欲しいもの」TOP３は **「自己承認欲求」や「自己実現欲求」との関係**

「自由に使えるお金」「安定した仕事や収入」「自分のための自由な時間」

「悩み」TOP3は「安全欲求」「社会的欲求」「承認欲求」「自己実現欲求」**との関係**

「両親（義理の両親）とのかかわり」「セックスレス」「夫のモラハラ」

「育児うつ」が第４位

ママが頼りにしているのは、パパ、両親・義両親なので、その関係性に注目している。

ママのイベント好き、SNS やアプリ好きは、「社会的欲求」「承認欲求」「自己実現欲求」と関係

行事はママ自身の充実度をあげる要素になっている。

「子供の行事などをクリアしていくと充実を感じる」、「子供の成長を見られる」、「自分も楽しめる」と感じている。

季節のイベントは「子供を喜ばせたくて」という理由がある。

ハーフバースデーなど成長を感じるイベントが増加している

家族みんなで楽しめることがイベントの醍醐味と感じていて、約９割が、子育て・成長をみんなで共有したい、一緒にサポートしたい気持ちをもっている。

もしも、欲求が満たされていないと、欲求不満や体調・感情がマイナスになるかも

「子どもを産まなければよかった」と思ったママは約４割

「離婚を本気で考えたことがある」と思ったママは約８割
パパにやってもらってよかったことは、「全ての欲求」を満たしてくれる
パパと子どもだけで過ごしてくれることが、ダントツ１位
ママの「欲しいもの」は、子供の成長や年齢によって変わっていくので、確実な対応は分からない
「好きなように時間を使える」ことは、人間のすべての欲求を満たしてくれる。
さらにコミュニケーションを良くするには
日頃から感謝の気持ちを伝えるのがベスト
誕生日や結婚記念日、母の日などイベントを活用して感謝してみる

■質疑応答

パパのモラハラとは具体的にどのようなものか。

ハラスメント自体が「相手の主観」が原点になるので、パートナー次第にはなるのだけど、少なくとも、自分が嫌だな、と思うことは避けた方がいい。

「(自分の母親は) こうだったから、そうやって」という、パートナーと誰かを比較するのは、「安全欲求」「承認欲求」にかかわるので、確実に避けた方がいい。

「〇〇すべき」論も命に係わることは大切だけど、自分の意見と、パートナーの意見の折衷案を見出すプロセスが大切になるので、よく話し合う必要があると思う。

子育て講座に参加すると、「大変」という意見しか聞こえない。「いいな、よかったな」と思うことはどんな出来事か。

「(あたらしく何かが) できた」といった成長を感じられたときがうれしいと感じる。

特に、子どもの「初めて〇〇したとき」がうれしい：寝返り、座る、立つ、パパと呼ぶなど

＜所感＞

子育てスペースに遊びに来ていた家族に、直接声掛けをして周知した。今まではチラシを活用していたが、パパということもあり、子育てスペースでチラシを手に取る機会がすくないことや、ママと相談して参加すること等を踏まえると、当日勧誘の手法も効果があるようだ。

産婦人科医から医学的な話、父親として体験した話などを、直接聞ける体験は、現在の教育課程は困難のため、こういった講座の必要性を感じた。

妊婦ジャケット体験を通じて、動きにくさや感覚を体感し、パートナーの体験さや、感謝の気持ちを持ったようだ。今後も妊婦体験ができる機会を検討したい。

また、アンケートなどの客観的データにも興味を持っていただいて、「我が家」ではどうするか、といった意見や、対策として具体例がないものの、「承認欲求」というスケールで物事をとらえるという視点も参考になったという声が上がった。具体例でなくても、心理学や、行動学といったスケールを提供することも、一つの視点として有効であると感じた。

⑤ママとパパも赤ちゃんもにっこり♪ライフ
＜「ラクうまごはん」のコツ、ゲット＞

開催日時：令和元年 11 月 9 日（土）　10:30～12:00
開催場所:いわて県民情報交流センター　アイーナ　団体活動室４
講　　師：小豆嶋祥子氏（管理栄養士）
参加人数：　９名（講師１名、事務局２名（両川、河本)、受講者６名）
内　　容：
10：30 ～ 10：35　趣旨説明
11：35 ～ 11：25　講座
11：25 ～ 11：50　試食
11：50 ～ 12：00　質疑応答・アンケート

■趣旨説明、講師紹介

当団体は、子育て世代に着目し活動している、認定 NPO 団体である。
本年度は祖父母も含め、みんなで子育てできる環境を作るための情報発信を行っている。
この講座では、共働きや子育てで忙しい日々、簡単で美味しい料理を家族で体験して、今後の生活に生かしていただきたい。
講師は、本団体の子育て支援施設にて、栄養相談を担当いただいている小豆嶋祥子さんです。

■講座詳細

炊飯器で：炊き込みご飯を作る
役立ち調味料をつかうことで､｢入れるだけ｣の簡単メニューになったり､彩り豊かになったり､「ごちそう」ごはんになる。
もち米を使うと、より風味が出る

フライパンで：茶碗蒸し・ナムル・サバ缶トマト煮を作る
フライパンは焼くだけでなく蒸す、煮るができる。
ポリ袋を使うと、ほかの調理と並行して出来上がるし、洗い物を減らせる
「入れるだけ」「ほっとく」ことで、作業が減る。

時短のコツ
役立ち調味料を使うことで、量を測ったりしないですむ。
〇：〇のような割合を覚えておく
冷蔵庫の収納の仕方を変える：各コーナーにまとめて、一目で在庫管理
調理済み食品に「ちょい足し」して、栄養価を上げる、カサ増しする

■質疑応答

生クリームは、牛乳に代替え可能か？
→可能だが牛乳は「煮込む」には向いていない。温度調整が必要になる
今回は茹でたホタテを利用しているが、生でも可能か？
→余熱も利用するので可能。肉や野菜もバリエーションとしていいと思う

ブーケガル二がなかった場合の対処が知りたい

→香味野菜やハーブ、好みでよい。今回はローリエやニンニクが入っている。

＜所感＞

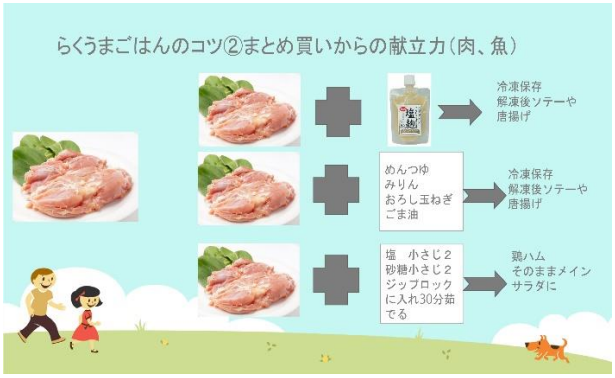
試食時間を設けたことで、ごはん、メイン、副菜としたランチ気分を作ることができ、参加者間で自然に育児についての情報交換ができたことが印象的であった。

また、参加者のなかには、今回の食品に苦手意識があったものの、「おいしく食べられた」と笑顔を見せる場面があった。

参加した子どもが、食材や調理に興味をもっていた様子を垣間見ることができた。

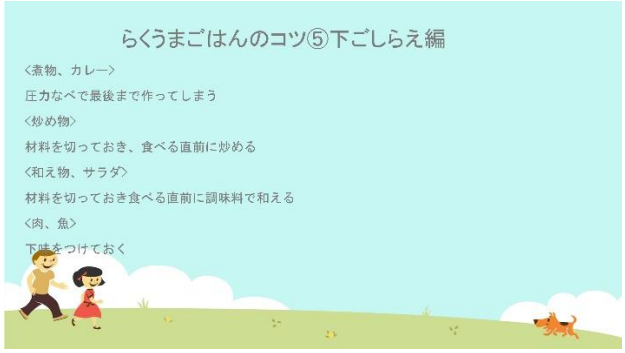
今後「子どもが苦手な食材」を使った講座や、親子で一緒に作る講座ができたらいいと思う。

≪資料≫

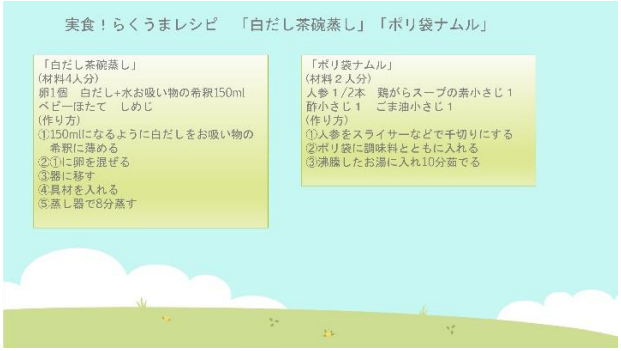

らくうまごはんのコツ②まとめ買いからの献立力（肉、魚）
冷凍保存
解凍後ソテーや
唐揚げ
めんつゆ
みりん
おろし玉ねぎ
ごま油
冷凍保存
解凍後ソテーや
唐揚げ
塩　小さじ２
砂糖小さじ２
ジップロック
に入れ30分茹
でる
鶏ハム
そのままメイン
サラダに

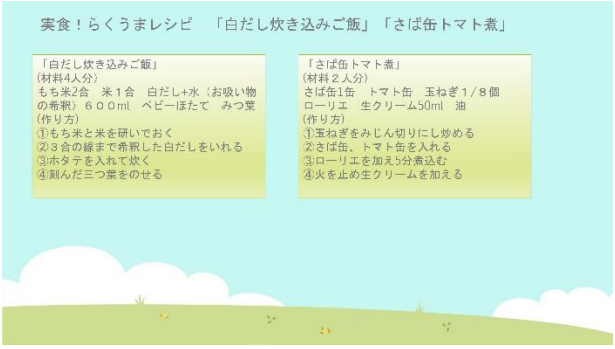
らくうまごはんのコツ③調理済食品を味方に
きゅうり、えのき、しめじ、タコなど
ちょい足し！
長いも、なめこ、えのきなど
とか
に
水菜、レタス、ハムなど

らくうまごはんのコツ④役立ち調味料
・記載の通りにお吸い物、煮物、おでんに
・茶碗蒸し、炊き込みご飯に
・卵焼きの醤油代わりに。色よく仕上がる
・時間を見つけて野菜
を切って漬けておく
・プラスすりおろし玉ねぎでお肉や魚をつけておく
→柔らかくジューシーに。片栗粉をつけて揚げても
・水と1対１で割り煮魚


らくうまごはんのコツ⑤下ごしらえ編
<煮物、カレー>
圧力なべで最後まで作ってしまう
<炒め物>
材料を切っておき、食べる直前に炒める
<和え物、サラダ>
材料を切っておき食べる直前に調味料で和える
<肉、魚>
下味をつけておく

らくうまごはんのコツ⑥おばあちゃんの知恵袋
・茶碗蒸しは1対３
卵1個50g　だし汁150g（お吸い物の塩加減　甘い味が好みなら砂糖）
→約4人分　好きな具材を入れ8分蒸す
・炊き込みご飯はお吸い物の塩加減で炊く
・ポリ袋、キッチンハサミで洗い物を少なく
・オーブン、魚焼きグリル、電子レンジをかしこく使う


実食！らくうまレシピ　「白だし茶碗蒸し」「ポリ袋ナムル」
「白だし茶碗蒸し」
(材料4人分)
卵1個　白だし+水お吸い物の希釈150ml
ベビーほたて　しめじ
(作り方)
①150mlになるように白だしをお吸い物の
希釈に薄める
②①に卵を混ぜる
③器に移す
④具材を入れる
⑤蒸し器で8分蒸す
「ポリ袋ナムル」
(材料２人分)
人参１/2本　鶏がらスープの素小さじ１
酢小さじ１　ごま油小さじ１
(作り方)
①人参をスライサーなどで千切りにする
②ポリ袋に調味料とともに入れる
③沸騰したお湯に入れ10分茹でる


実食！らくうまレシピ　「白だし炊き込みご飯」「さば缶トマト煮」
「白だし炊き込みご飯」
(材料4人分)
もち米2合　米１合　白だし+水（お吸い物
の希釈）６００ml　ベビーほたて　みつ葉
(作り方)
①もち米と米を研いでおく
②３合の線まで希釈した白だしをいれる
③ホタテを入れて炊く
④刻んだ三つ葉をのせる
「さば缶トマト煮」
(材料２人分)
さば缶1缶　トマト缶　玉ねぎ１/８個
ローリエ　生クリーム50ml　油
(作り方)
①玉ねぎをみじん切りにし炒める
②さば缶、トマト缶を入れる
③ローリエを加え5分煮込む
④火を止め生クリームを加える

家族みんなが笑顔になるには
ママの笑顔が一番！
簡単だけどおいしい料理で
赤ちゃんとの生活をたのしもう！
ご清聴ありがとうございました

＜「ちゃちゃっと家事」のコツ、ゲット　＞

開催日時：令和元年 11 月 9 日（土）　13:30～15:00
開催場所：いわて県民情報交流センター　アイーナ　団体活動室４
講　　師：岩舘ゆかり氏（ライフオーガナイザー）
参加人数：　7 名　（講師１名、事務局２名（両川、河本）、受講者４名）
内　　容：13：30 ～ 13：35　趣旨説明
　　13：35 ～ 14：45　講座
　　14：45 ～ 15：00　質疑応答

■趣旨説明、講師紹介

当団体は、子育て世代に着目し活動している、認定 NPO 団体である。
本年度は祖父母も含め、みんなで子育てできる環境を作るための情報発信を行っている。
この講座では、共働きや子育てで忙しい日々、「片付け」講座を家族で体験して、今後の生活に生かしていただきたい。
講師は、本団体の子育て講座にて、講師をしていただいている岩舘ゆかりさんです。

■講座詳細

家事とは「家族が生活するためにする事」
生活を安心・安全に暮らせるために必要な仕事といえる
1 日は 86400 秒、1 日の 1%は 15 分。この１％すら時間をとれない状態を解決していくことが必要。

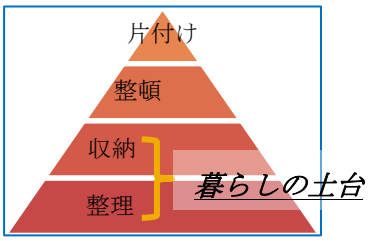
家事を分解する
家族をチームと考える思考になると、分担しやすく、子どもにもやりやすい。
ワーク１：朝・昼・夕方・夜で仕事を分ける。誰が、何をしているかを見る
ワーク２：家事を分解して、「同時進行している」こと、「分別する」こと、「思考する」ことに分ける
例：「同時進行」型　→朝食づくりとお弁当作り
「分別」型　　→ゴミ、洗濯物
「思考」型　　→献立、在庫管理、子どもをなだめる

家事を手放す
優先順位として「すぐやる」「大きな石（自分にとって大切なこと）」「反応しない」「削除」するものに分ける。
手放したことで、利益になるものを見つける。
→手放したことで罪悪感をかかえないこと。
ほかの人との意見のすり合わせが必要
方法　①使い捨てにする（食器洗い）
②ロボット（食器洗い・乾燥・掃除・洗濯）
③消毒をしない（掃除・環境整備）
④服をたたまない（分別・在庫管理・整理・収納）

その片付け、あってないかも

片付けは「生活をラクにするための」手段であって、

「きれいに過ごすための」目的ではない



片付けのメリット

①安全・衛生的
②自立する
③時間に余裕
} ストレス・イライラが減る

人それぞれの得意分野、やりやすい方法が存在する。苦手な方法は「時間と動機付け」が必要になり、ストレスがかかり長続きしない。

脳の仕組みとして「女性は男性よりも脳梁が広い」＝マルチタスクが可能

男性が女性のように行動しようとするとストレスが 3 倍になる

脳の優位性：利き脳によるやりやすい片付け方がある

右脳：ざっくり・イラスト

左脳：細かく・ラベル

片付けのポイントは、「場所」「量」「手段の簡潔さ」

片付けの３ステップ

①分ける：全体の 70%となる極意。グループを作ったら点在させないこと。

「使う」「思い出」「迷う」「捨てる」に分ける

②収める：アクションを減らすための工夫をする：かける・入れる・置くだけ

使う場所のそばに置く：玄関・居間・床・棚

③見直す：ハードルは一番苦手な人に合わせる：導線の確認、なぜできないかを考察

■質疑応答

実際やっている「手放した家事」は何か？

食べたいものを食べる家族への食事の提供（作っても文句を言う、食べないから）

乾燥機付き洗濯機にした

焼くだけの味付き食材を使う

お弁当は冷凍食品のおかず

生ごみ回収前日に、野菜を丸ごとゆでて、使い切る

味噌玉作り

声掛けの工夫

一番苦手なひとに合わせる「明確化」

一つ一つクリア、積み重ねが必要

「戻そう」「入れよう」「〇個集めよう」など

＜所感＞

片付けを通じて、自分らしさ、自分の特性に興味を持った様子がうかがえた。パートナーと参加したグループは、それぞれの特性を知り、より良い工夫をするために質問を積極的にしていた。

また妊娠中の方は、今回を通じて、より生活しやすい方法を検討するようであった。

声掛けの工夫や片付け方の工夫は、育児にも使えるものであり、イヤイヤ期を乗り切るスキルとしても活用できると感じた。

２．学生、子育てについて考える

＜1 回目　スタートアップミーティング＞

開催日時：令和元年 12 月 7 日（土）　13:00～14:30

開催場所：いわて県民情報交流センター　アイーナ
6 階 NPO 活動交流センター控室 1・2

参加人数：　7 名（事務局２名（両川、河本）、参加者 5 名）青少年活動交流センターからの紹介

内　　容：

13：00 ～ 13：02　趣旨説明

13：02 ～ 14：20　講座

14：20 ～ 14：30　今後について調整

■趣旨説明、講師紹介

当団体は、子育て世代に着目し活動している、認定 NPO 団体である。

本年度は祖父母も含め、みんなで子育てできる環境を作るための情報発信を行っている。

子育てについては、親世代、祖父母世代の意見は数多いが、子育てを受けている子どもからのメッセージ・データが少ないため、皆さんが考える「子育てについて」をまとめて、発表してほしい。

■講座詳細

来年 2 月 8 日に 10 分間の発表の場を設けるので、発表してほしい。

→powerpoint を活用して発表する。時間的に資料 5 枚程度にまとめる

当日は、役割分担し全員で発表する

子育てについて考えてみる

→親が責任をもって育てるという意識はある

16 歳で結婚ができるし、世界では親になっている人もいたりする。実感はある？

→イメージがない。大学進学やなりたい職業を重要視している

父母・祖父母とのかかわり

親世代の理想は、近居にいてほしいし、手伝ってもらいたいようだ。体験としてはどのようなこと

があったか。

→親より祖父母に懐いていた。一緒に寝たり、幼稚園などのお迎えをしてもらっていた

→小さいころは一緒に住んでいたが、今は別居になっている

→一緒に住んでいたようだが記憶にはない

→近所に住んでいて、夕食を持ってきてくれている

→妹の幼稚園のお迎えが、両親の勤務時間内だったので、祖母がしていた。

→兄弟と 10 歳年が離れているので、実質一人っ子みたいなもの。家族との仲はいいけど、逆に好きすぎて甘えてる、とも思う。

→夕食を持ってきてもらっているが、移動の心配はある

人生について考えてみる。理想の一生では、どのようなことが必要になっているかを見てみよう。

→世界で仕事がしたい。自分が子育てするよりも、こどもの支援がしたい。

→仕事を優先して、余裕ができたら子どもがいたらいいと思う。

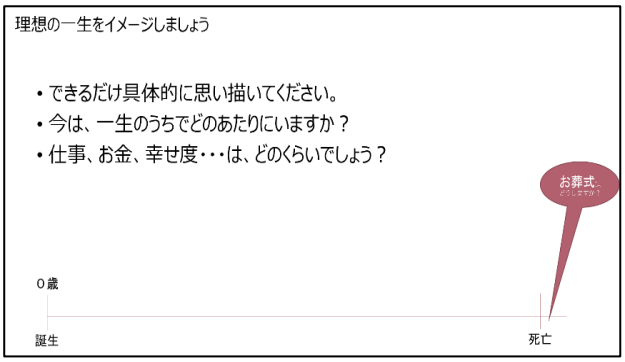
→子どもは、2 人欲しい。1 人目は女の子、2 人目は男の子がいい。自分が一人っ子だから兄弟はいいなと思う。

→いっぱいやりたいことがあった。

→仕事や活動を生涯現役で、活動していきたい。

→75 歳くらいの元気なうちに、ぽっくり死にたい。

→世の中を見て、仕事や結婚相手を見つけて、30 歳くらいで地元に帰って、地元を盛り上げたい。子育ても地元でしたい。



理想の一生と子育ての関係性はどうだろうか？

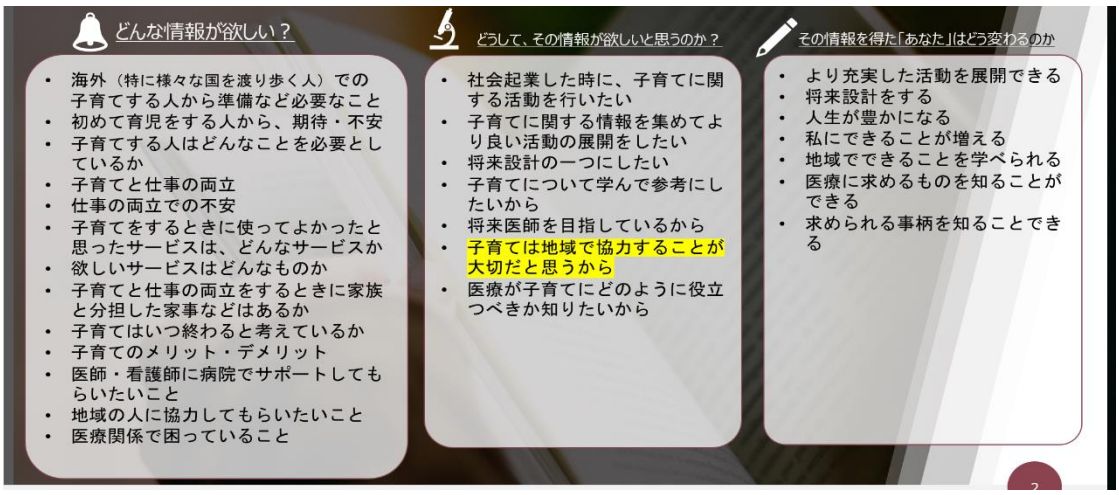
→まだ必要性は感じない。進学ややりたい仕事のことが最優先だと思う。

→なんとなく、自分にとっては必要な気がしてきた。

子育て中の人に聞いてみたいこと

A．将来の仕事として子育て事業に興味がある　→子育てを助ける側の視点

B．自分が親になったときの興味がある　　→子育てをする側の視点



→子育てでは、どんなことが大変なのか

→子育てをするには、何が必要なのか

調査について

調査場所は「アイーナ 6 階　子育て支援センター」で対応する。そのためイベントや休刊日以外で調整してほしい。

→閉館時間は 17:00

対応不可日　12 月：10（火）、15（日）、24（火）、AM 不可は 20（金）

12 月 29 日から 1 月 3 日

1 月：14（火）、19（日）、28（火）、AM 不可は 8（水）、17（金）

・施設に依頼をするため、調査希望日の前日までに、連絡をしてほしい。

・調査日にはスタッフ（河本）が同行予定。施設の人の指示に従ってほしい。

連絡方法

・LINE グループで情報共有させる。

・所属校が違うので、全員での行動が難しいときは、少人数で対応する。

＜いわて県民情報交流センター　アイーナ 6 階　子育てサポートルーム内での子育て世代へのアンケート＞

開催日時：令和元年 12 月 21 日（土）　13:00～15:30

令和 2 年 1 月 6 日（土）　13:00～15:30

参加人数：　12 月 21 日　19 名：高校生 5 名、親子 11 名（母&男児、母&兄弟、母&兄妹、父母＆男児）、事務局 1 名（河本）、サポートルームスタッフ 1 名）

1 月 6 日　13 名：高校生 4 名、親子 7 名（父母＆男児、母&女児、母&兄妹）、事務局 1 名（河本）、サポートルームスタッフ 1 名）

子育てのタイミング

■結婚・出産を考えた時期

- 仕事に慣れた、落ち着いた
- 経済的に余裕ができた
- 生活が落ち着いたと感じた
- パートナーと付き合い始めたときに
- 子どもとかかわる仕事をしていて、職場の先輩も子どもがいて、いいなと思った
- 結婚して、１~2年たったから
- やりたいと思ったことをやりきったと思えたから

地域とのかかわり

■利用している子育てサービスについて

- 市の助成金にて出産、育児にかかる医療・検診・予防接種費が無料
- 支援センター
  - 子育てで必要なことが、一か所でできること
  - 授乳・飲食、
  - 目が届く配置・高さの家具
  - 子どもも親も同世代とかかわることができる
  - 家ではできない遊びができる
- 保育園・幼稚園
  - こども自身が、一人で体験できる
  - ほかの子どもとのかかわりを学ぶ
  - 親が、仕事・家事など、やるべきことに集中できる
- 保育付きの美容院・歯科医院

■子どもを保育園幼稚園・社会にかかわらせて感じたこと

- 母親以外の人の存在が大切
  - 子どもが、その人に反応して気分転換をした
- 上級生に相手をしてもらうことで、家でも下の子の相手をしてくれる
  - お手本がある

■地域に協力してもらいたいこと

- 挨拶でも、一言でも，地域の人に声をかけてもらえると安心する
  具体的には…
  道端でぐずってしまった子どもに
  「どうしたの？」と声をかけてもらったら
  気が楽になった
- 目の届かないところで気にかけてもらえればいい
- 色々な外遊び・大声を出せる公園・環境が欲しい
  - 釜石から来たが、盛岡はいくつか遊び場所があっていいなと思う。
  - 滑り台と鉄棒だけがある広場が多く、全年齢で遊べるような遊具がない
- 転勤すると、自治体ごとに制度が異なるので、理解・活用に時間がかかる

仕事と育児の両立

■パパの悩み

- なかなか懐いてもらえない
- どうしても母親が一緒にいる時間が多い。
- 何かあると、母親に行ってしまう。
- 寝てくれない、嫌がられる、泣かれる
  具体的には…
  ゆっくり母親にお風呂に入ってもらおうとは思うけど、泣かれてしまう
- パパ友が作りにくい

■夫婦で家事の分担したこと

- 夫に「やってもらえる」環境を作る（声かけ、置き場）
- 大雑把に片方が子どもの対応をしていたら、もう一人が家事をやる
- 夫婦だけの時間のうちに、体験しておく、やってみる
- 夫の実家での同居をやめたため、再構築中だが、分担していると感じることが増えた

■具体的な例

- 休みの日は子どもの相手
- 風呂掃除
- ごみ捨て
- 皿洗い

医療の視点

■医療・医師・看護師にサポートしてもらいたい事

- 待ち時間が長い
- 子どもが遊べるようなプレイルームが欲しい
- 待ち時間の短い予約制にしてほしい
- 訪問医療が欲しい
- 離乳食・卒乳の相談

両親との関わりの視点

■誰の支援が子育てにおいて一番大切か？
- 夫・親：気が許せる、本音が言える、すぐに頼れる

■祖父母の近くで子育てをするメリット
- 身体的・精神的負担が減る
  具体的には…
  気分転換や非日常感が味わえる
  子どもにとっては新しい体験

■両親とのかかわり
- 「何かがあったら、助けてもらえる」安心感
- 駆け込み寺のようなもの
- 頼れる
- 依頼する親の祖父母に依頼しやすい。そのほうが安心で気が楽。
- 母親のほうが、こどもの扱いに慣れているので母方の両親にお願いすることが多い
- 両親が高齢のため、預けられない
- それぞれの親にそれぞれが連絡する

育児の「大変なこと」の視点

■子育てで困ったときの対応
- 家族（夫・親）に相談
- 画像SNSを確認：皮膚・食事のこと
- 父親や祖父母、誰かいてほしい

■具体的な大変さとは…
- 子ども2人に同時に泣かれること
  母親が一人で対応すると、それぞれが話を聞いてほしくてヒートアップしている。そして、母親もヒートアップしてしまうことがある
- 原因や対策がわからない
  身体にできた発赤や発疹
  ご飯を食べさせる工夫
- 泣く理由・泣いたときの対処
  原因や対策がわからない

子どもとの関わりの視点

■子育てをして感じたこと
- 楽しい
- 元気づけられる
- 癒される
- 成長がみられる
- つらいことがあっても頑張れる
- 自分の時間がない
- 子どもが寝たときだけが休める時間
- 自分のことは後回しになってしまう
- 自由な時間を、もっと楽しんでおけばよかった

■子どもに「兄弟がいる」ということ
- ものの取り合いがおこる
- 一番上の子が、下の子の面倒をみてくれる
- 年齢が離れている兄弟だと、特に「子守をしてくれている」と感じる
- 一人目の育児は精一杯という感じ。2人目になると余裕が出てくる。
- 切り替えが早い
- 喧嘩してもすぐに仲直りして、笑いあっている（親としてはびっくり・ほっこり）

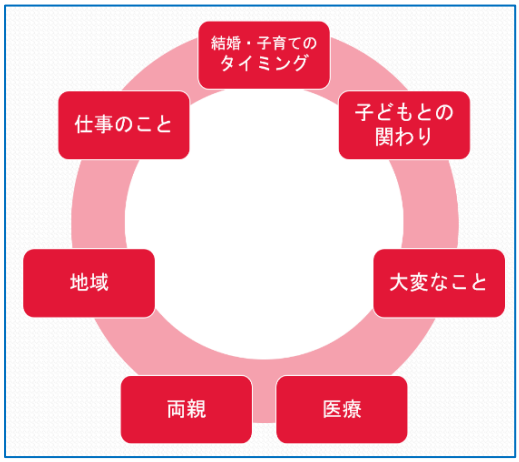
＜アンケートまとめ、および祖父母との関係性のまとめ＞

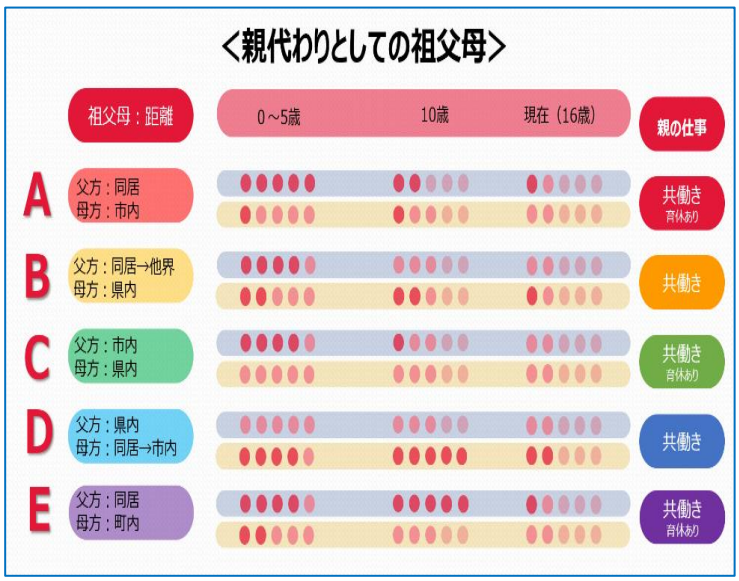
開催日時：令和２年１月 13 日（土）　13:00～15:30
　　令和２年１月 26 日（日）　10:00～12:30

参加人数：　１月 13 日　５名：高校生４名、事務局１名（河本）
　　１月 26 日　５名：高校生４名、事務局１名（河本）

アンケートをまとめ、カテゴリー別に区分した（下図－1）

祖父母との関係性について、年代別で変化していること、かかわりの頻度によって、違いがあることが分かった。アンケートにもあったように父方の祖父母との関係については、同居している場合を除き、母方に比べ、希薄になりやすいと感じた。　（下図－2）





＜所感＞

SNS を活用して交流するスタイルが、高校生では定着している情報化社会が印象的であった。

理想の人生を送れるような情報や、気づきが得られるようなスタートアップミーテングを行ったことで、自分自身に有効な情報の収集を行うことができたようだ。

それぞれが、なりたい未来像を持っていてくれたため、その未来の仕事に役立ちそうなことや、ライフワークバランスのことに興味をもって取り組んでいた。

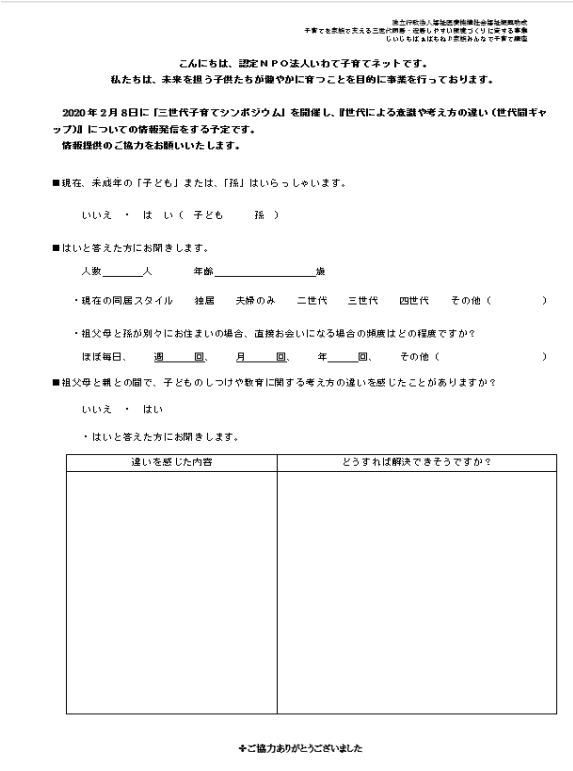
今回の学生の募集については、岩手県青少年活動交流センターにボランティア登録している学生を紹介していただいたこともあり、参加メンバー間には交流があった。メンバーの特徴によって仕事を割り振りしながら取り組んでいた様子が見られた。今までのような公募のほかにも、交流のある団体から紹介していただく方法も、参加者にとっても、運営側にとっても良い相乗効果を得られるのではないかと感じた。

３．三世代子育てアンケート

親世代と祖父母世代の関わりにおいて、お互いがよりよく子とかかわるために、「世代による認識や考え方の違い」について、アンケートを実施した。

　なお、本アンケートにおいて、月 2 回以上の面会がある場合を「近居」と定義した。

その結果は以下の通り。



独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成
子育てを家族で支える三世代同居・近居しやすい環境づくりに資する事業
じぃじもばぁばもね♪家族みんなで子育て応援

こんにちは、認定ＮＰＯ法人いわて子育てネットです。
私たちは、未来を担う子供たちが豊やかに育つことを目的に事業を行っております。

2020年２月８日に『三世代子育てシンポジウム』を開催し、『世代による意識や考え方の違い（世代間ギャップ）』についての情報発信をする予定です。
情報提供のご協力をお願いいたします。

■現在、未成年の「子ども」または、「孫」はいらっしゃいます。

いいえ　・　はい（　子ども　　孫　）

■はいと答えた方にお聞きします。

人数＿＿＿人　　年齢＿＿＿＿＿＿＿＿歳

・現在の同居スタイル　　独居　　夫婦のみ　　二世代　　三世代　　四世代　　その他（　　）

・祖父母と孫が別々にお住まいの場合、直接お会いになる場合の頻度はどの程度ですか？

ほぼ毎日、　週＿＿回、　月＿＿回、　年＿＿回、　その他（　　）

■祖父母と親との間で、子どものしつけや教育に関する考え方の違いを感じたことがありますか？

いいえ　・　はい

・はいと答えた方にお聞きします。

違いを感じた内容	どうすれば解決できそうですか？

✚ご協力ありがとうございました

期間：２０１９年９月～２０２０年１月

対象：当事業で開催した講座・イベント参加者

　　施設利用者

　　高齢者活動団体に所属している団体・個人

回収数：　１０２件

　　未成年の「子」「孫」とかかわっている：90 件

　　内訳　　親世代：87 件

　　祖父母世代：7 件

　　未成年の「子」「孫」とかかわっていない：9 件

　　（妊娠中・子世代が成人後）

　　未記入：３件

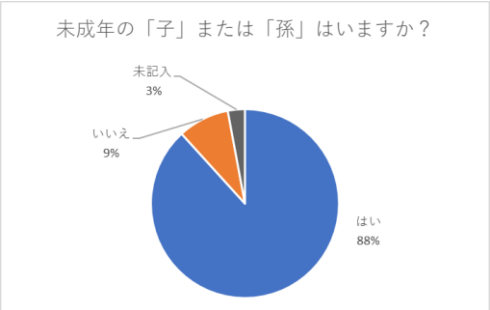
アンケート内容：右図参照

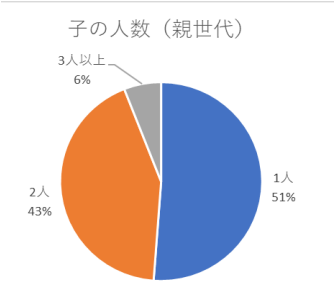
集計内容　：

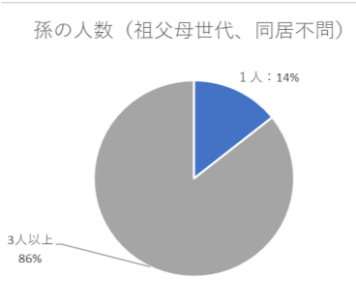
■アンケートに参加いただいた方の背景

・親世代は、初めての子育ての集団と、子育て経験がある集団が大体半数ずつの集団であった。

・祖父母世代は、複数人の孫がいる集団が 85%を超え、また三世代以上（孫と同居）の集団が 65%を超えた。

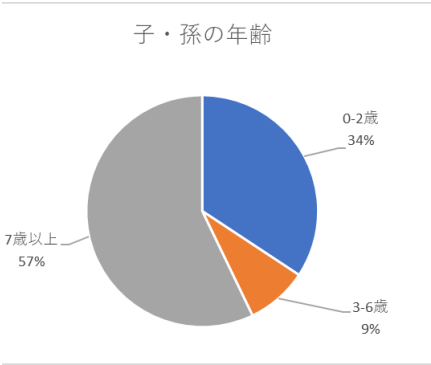


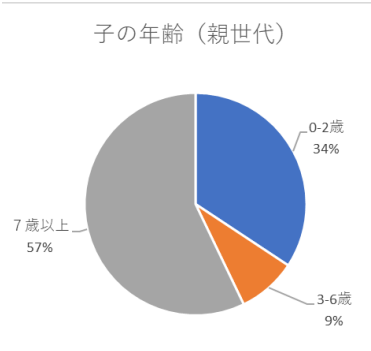


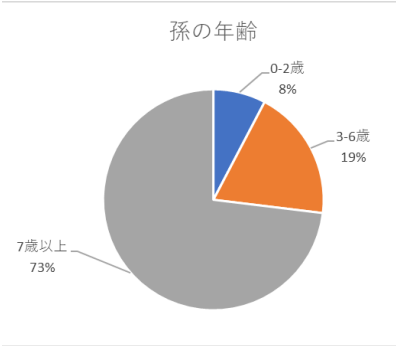


■子・又は孫の年齢

・親世代、祖父母世代ともに、就学後の子の人数が多い。これは当団体が協賛参加した「いわて親子フェスティバル in アイーナ」（小学生以下親子体験型イベント）に参加いただいた方へアンケートを依頼したことも一因である。



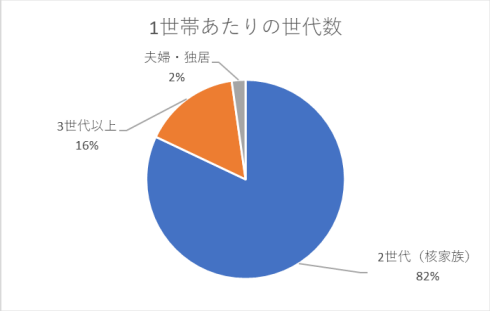


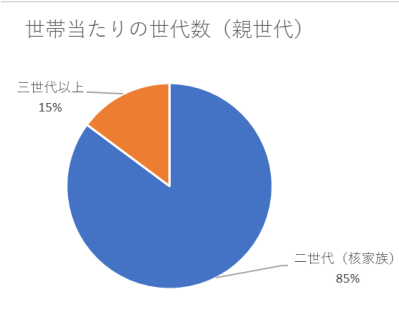


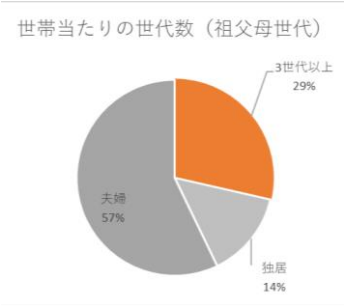
■世代数

・親世代は、親子二世代（核家族）が 69 件だった。

・祖父母世代は、三世代同居が 2 件だった。



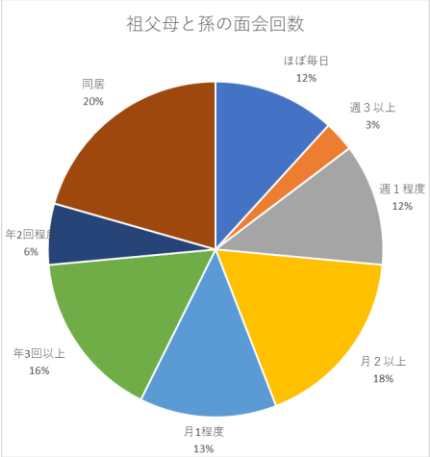


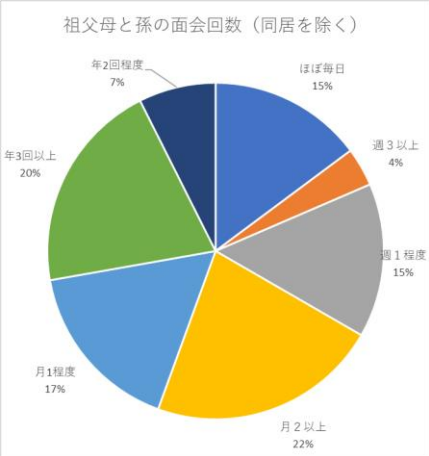


■祖父母世代と子世代（祖父母と孫）の面会回数

・三世代同居は 20%であった。同居以外の場合、近居の家族は 60%であった。

・三世代同居または近居の家族は約 65%であった



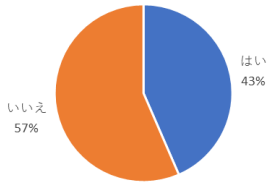


■祖父母と親との間で、子どものしつけや教育に関する考えの違いについて

・親世代は約半数が、『考え方の違いを感じたことがあるか』という問いに「はい」と答えた。

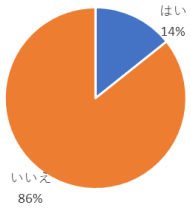
・祖父母世代では約 15%が『考え方の違いを感じたことがあるか』という問いに「はい」と答えた。
はいと答えた方の背景は「三世代同居」であったが、具体例は未記載であった。

祖父母世代と親世代で、子育てに関する考えの違いを感じるか



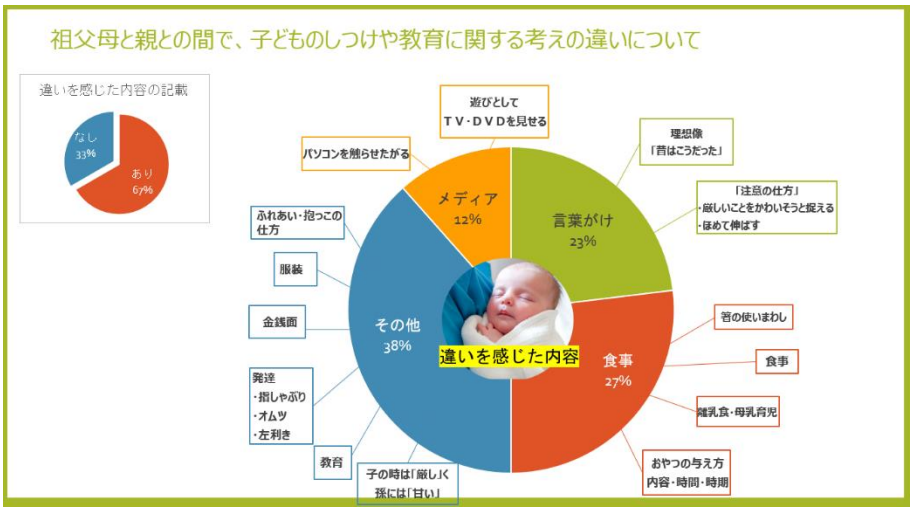
祖父母世代と親世代で、子育てに関する考えの違いを感じるか（親世代）

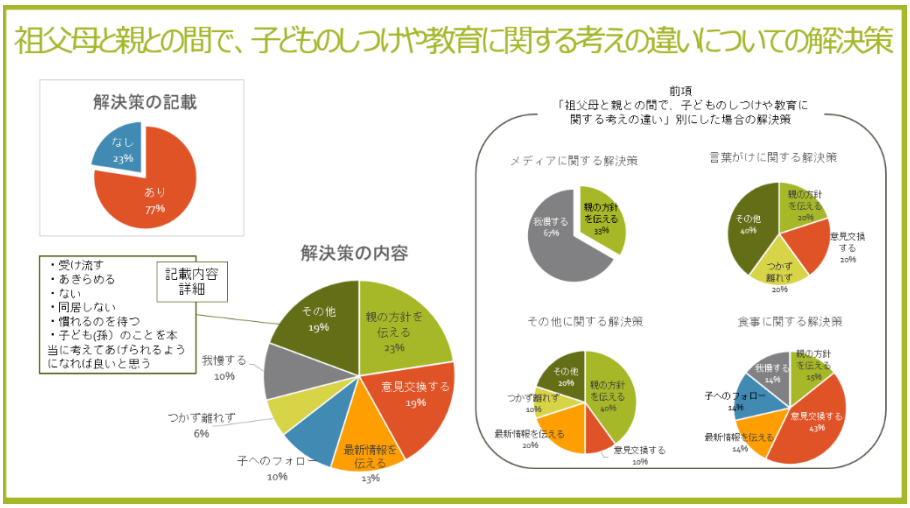
祖父母世代と親世代で、子育てに関する考えの違いを感じるか（祖父母）



■祖父母と親との間で、子どものしつけや教育に関する考えの違いを感じた具体的内容、および解決策については、未記載が約 30%だった。（親世代のみが対象、別添資料）

・解決策は、祖父母世代と親世代が、何らかの情報交換をすることが最も多く、子どもへのフォローも含めた、家族間での情報交流を解決策としたのが約 70%であった。



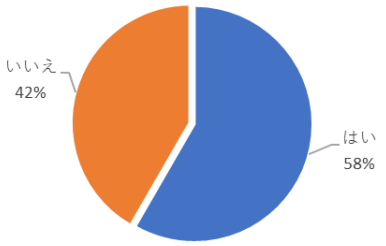


■その他

今回のアンケートでは、親世代に対し祖父母世代が全体の 10%であった。

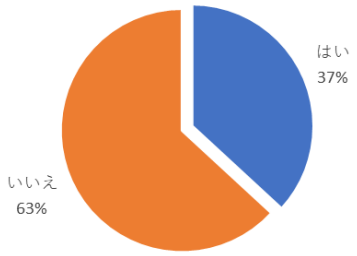
月 1 回程度の関わりを持つ場合が、子のしつけや教育の考え方の違いを感じると答えた数が最小であったことが分かった。

祖父母世代と親世代で、子育てに関する考えの違いを感じるか（同居の場合） n ＝親世代



祖父母世代と親世代で、子育てに関する考えの違いを感じるか（週1回以上面会）n=親世代

祖父母世代と親世代で、子育てに関する考えの違いを感じるか（月1回程度面会）n=親世代



祖父母世代と親世代で、子育てに関する考えの違いを感じるか（年数回面会）n=親世代

子の年齢によって、『子のしつけや教育の考え方の違いを感じる』と答えた数の変化はみられなかった。

祖父母世代と親世代で、子育てに関する考えの違いを感じるか（子世代が7歳以上）

祖父母世代と親世代で、子育てに関する考えの違いを感じるか（子世代が3-6歳）

祖父母世代と親世代で、子育てに関する考えの違いを感じるか（子世代が0-2歳）

４．子どもも親もじぃじもばぁばも家族みんなが笑顔になるための三世代子育てシンポジウム

ム

開催日時：令和 2 年 2 月 8 日（土）　13:30～15:45
開催場所：いわて県民情報交流センター　アイーナ 4 階　アイーナスタジオ
参加人数：　53 名（事務局 4 名（両川、河本、細田、岡田）、登壇者 9 名、参加者 40 名）
内　　容：
13：30 ～ 13：35　挨拶・趣旨説明
13：35 ～ 14：20　第一部　基調講演
14：20 ～ 14：30　第二部　今後について調整
14：30 ～ 15：45　第三部　パネルディスカッション

■挨拶・趣旨説明

この事業は独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成を活用し、子育てを家族で支える三世代同居・近居しやすい環境づくりに資する事業として、本年度様々な講座を実施した。
集大成としてシンポジウムを開催。三世代同居・近居しやすい環境づくりにイベントも実施し、それぞれの世代が、特に祖父母世代が、子ども世代とどうかかわればよいか、という視点も取り入れている。
三世代の同居・近居を事業の焦点としているが、現代のように SNS などを活用して関係性を築いている、といった新たな関係性も生まれてきている。確実な答えが出るわけではないかもしれないが、今日の内容が、今後の世代間の関係性のヒントになればいいと願っている。

■第一部　基調講演　「子どもの育ちと関係の多様性」お茶の水女子大学名誉教授　高濱裕子氏

「子のために親や祖父母はこうでなければならない」という論調が最近ある。全ての人には、それぞれの人生があり、生き切らないとつらい。子のためではなく、それぞれの世代に焦点を当てる。

Key Concept

- あなたは「私は幸福だ」と感じていますか？
- あなたのお子さん／お孫さんが関わりをもつ相手は多様ですか？
- あなたは自分と他者との共通点と相違点では、どちらが気になりますか？

文化と幸福（内田・荻原,2012より改変）

	日　本	北　米
幸福感情	低覚醒感情「おだやかさ」 関与的感情「親しみ」	高覚醒感情「うきうき」 脱関与的感情「誇り」
幸福のとらえ方	陰陽思考・ネガティブさの内包	増大モデル・ポジティブ
幸福の予測因	**関係志向** 協調的幸福、人並み感 関係性調和 ソーシャル・サポート	個人達成志向 自己価値・自尊心

日本人の幸福感とは

海外主要国と比べ、数値は低い

主観的であるからこそ、経済・社会・心理・哲学・政治などの協働指標が必要

日本人は人とのかかわりの中で幸せを感じる

いいことが続くと「調子に乗ってはいけない」と自制するネガティブさが内包している。

関係志向とは他者との関係視点であるが、北米は自分がどうかという視点で考える。

先進国が幸せとは限らない可能性

発展途上国にとっては先進国がモデルで追いつこうとしてきた。でも経済が頭打ちになっている中で、先進国のようになれば幸せになるのか？という疑問もある

文化に優劣はないが、変化し続けていく。

文化に優れているかどうかはない。長い歴史の中でこのように育まれてきたが、今の高校生たちが大人になる頃には、これからの時代は変わっていくと思う。

発達心理学を学ぶために進化や生物学が関わる

協同繁殖が行われる理由（ゴリラ・チンパンジーの例）

産みの親が子育ての主軸だが、そこに祖父母、親予備軍の青年期も関わる。

親は子育てばかりだと自分が生きるチャンスを失ってしまう恐れがあり、誰かが関わってくれると休息と食餌できる。

親予備軍は子どもに対して興味津々であり、親は、最初は子を守るが、子の成長に伴い、親予備軍と子の様子を見守る。

親予備軍の体験は、人間でいえば、教育実習のようなもので、この体験が親になったときに上手に子育てできる可能性を高める。

子は決まった刺激よりも多様な刺激があった方がいい。

認知の発達が向上する。

それぞれが生き延びるために、いろいろな人と関わる仕組みは、進化の中で獲得してきた

孤立して育てるようになってきたことで、何がどう変化していくのか、考えさせられる。

人間の発達に不可欠なもの

バランスの大切さと、反応の有無

愛着対象とは、常にそばについていて、苦痛をすぐに取り除いてくれる人

応答的とは、行動にすぐ答えてくれること

探索可能性とは、安定した状態から周りを探索することが可能かどうかということ。いろいろ引っ張り出すとか。大人にとって困ることや危ないと声を上げてしまうようなことは、子どもにとって必要なこと。

多様性によって、養育者も子どもも成長する。例えばいないいないばぁ！は反応が少なくなってくると身振りを変えたり、速さを変えたり、顔を出す方向を変えたりするなど、養育者は乳児とのやり取りを通して、探りながら調節していく。

多様性のすがた

多様性を認め合うことは良いこと

多様性を認め合うには、「何を目指すか」が問われる。

大切でゆるぎない結節点が必要になる。

家族調査の実態

親子関係を調査すると、どうしても祖父母も調べなくてはならない

調査においては、中学校に依頼し、調査票を生徒に持ち帰ってもらい、任意で協力してもらった。その中で祖父母も紹介してもらうことで、ある程度スムーズに行った。

調査結果において驚いたことは、世代間の認識のズレが、思ったより大きかったこと。経済面である収入や、距離感のズレは大きく、他に重要な点もあることがわかる。

調査では母親の回答が多く、娘と母の関係は回答数全体の 70%に達した

世代間のソーシャルサポート

保育園のお迎えや病院の送迎などの道具的サポート

悩みや愚痴を聞いてもらうなどの精神的サポート

何かを買ってきたよ、おかずを作ったからお裾分けなどは経済的サポート

祖父母世代は本人の捉え方と周囲がどう見ているかに敏感になる

面接調査の中で祖母世代が「いろいろするが娘は喜ばない。そのため最近は聞いてからやるようにしている」と回答している。

家族の発達

子供世代の成長と、親世代の関心・対応、祖父母世代の心身の変化による

人間の発達に不可欠なもの

- 身体を成長させる栄養素
  過不足なく、バランスを保つこと
- 精神を健全に成長させる環境の豊かさ
  人的環境（愛着対象、応答的）
  物理的環境（探索可能性、多様性）

多様性を認めあうとは？

- 多様性を真に認めあうことができるか？
  相手の立場、相手の考え、相手の価値観を理解できるか？
  裏返せば、自己の考え、自己の価値観を意識化し、敏感になることを意味する。
- 多様性を認めあうために何が必要か？
  多様性には光と影がある（湯浅誠氏）。多様性を認め合っている状態は、つながりにくい。克服するためには「配慮 (inclusion)」が必要。

三世代の関係を結ぶために

- 親が必要とすることに絞って、祖父母は援助を考慮し、提供する。
- 子どもの養育に関して、親は大事にしたいことを明確化し、意識化したい。折に触れて、それをきちんと説明する努力をする。
- 子ども（孫）世代は、祖父母とのやりとりを通して関係を構築するだけでなく、親と祖父母の関係をそばで見ている。その体験が、祖父母に対する認識を形作ってゆく。

長いスパンのなかで、短期的、長期的で見ていく必要がある

■第二部　高校生による報告発表　「気になる子育てと祖父母との関わり」

鳥海真歩、中野碧衣、田ノ岡里紗、中村南水

昨年 12 月~インタビューと話し合いを重ねてきた　聞き取りの前に理想の一生について話をした。結婚や子育てに関するイメージはなかった。

サポートルームを利用している親世代に話を聞いた

子育てのタイミングに関わるのは、結婚する、経済的、精神的に安定していること

地域とのかかわりには、自治体による違い、家族以外との関係の必要性がある

仕事と育児の両立には、夫婦間の分担、パパの気持ちと仕事環境の整備が必要である

医療では、子どもをすぐに見てもらえるような、予約制や、プレイルームの整備が必要である

両親とのかかわりは、安心感が得られる、身体・精神的負担を軽減させる

祖父母との関わりについて

大きくなると親の代わりと感じることは少なくなる。

学校や地域との関わりが多くなる中で、育てられる立場から、家族の一員としての面が大きくなった。高校生にもできることがたくさんある、高校生にしかできないことを探したい。

■第三部　パネルディスカッション　「子ども親もじぃじ・ばぁばも、家族みんなが笑顔になるために」

ファシリテーター：高濱　裕子氏（お茶の水女子大学名誉教授）

パネリスト：古川　史子氏（親・遠方）

松尾　朋恵氏（親・近居、鍼灸師）

細田　北斗氏（親・同居、公務員）

石川　敦子氏（祖母・同居、一級和裁士）

鳥海　真歩氏（高校生・同居）

高濱）　1 時間を設定しているが、時間が少ないため、質問はアンケートに記載してほしい。今日の成果は次回以降に活かしていきたい。

早速、パネラーの自己紹介を、バックグランド含めて話してほしい。

古川）　4 歳と 2 歳の男の子の母親で専業主婦をしている。転勤族で以前は大阪にいた。自分の実家は福岡で、夫の実家は兵庫。出産前後は実家で過ごした。結婚後両親と過ごすことはなかったから、とてもいい機会だった。

子どもは 2 歳差で、母が出産の時にいてくれて安心だったし、2 歳児の心理的なことも解決できた。特に、母から不安だったことや経験を聞くことができてよかった。父は自分が子どものころは仕事ばかりで家にいなかったが、今回、小さい子と接することが「いい経験だった」と言ってくれた。

松尾）　3 歳の男の子と 1 歳の女の子の母親で、自宅兼サロンの店舗で自営業をしている。盛岡生まれ盛岡育ち。

子どもたちは保育園に預けていて、娘は 3 か月から預けていた。呼び出しが多く、自分が対応できない時は、近居の親や姉にお願いして迎えに行ってもらった。親や姉は、子どもにとっても親しい特別な人という認識があるようだ。

同居のメリットデメリットあると思う。もともと自分自身はおばあちゃん子だった。

細田）　父親代表で参加した。3 歳の娘の父親で、公務員をしている。嫁と自分の両親と一緒に住んでいる。東京生まれ北海道育ち。嫁は愛知出身で、岩手に縁がない。仕事の関係でここに住んでいる。子育ての前から一緒に住んでいる。両親が老後を考えて近くに住みたいと相談があって、だったら同居をとなった。結果的にうまくいっている。

石川）　祖父母代表で参加。1 年前まで同居していなかったが、次男の子どもが 1 年生に上がるのをきっかけに同居した。ほかに 3 歳、2 歳の孫もいて、7 人家族で住んでいる。

道具的サポートが多いかもと思う。それはそれで楽しく暮らしているかなと感じる。

鳥海）　盛岡三高の 1 年生。生まれてからずっと祖母と父と母と一緒に暮らしている。

高校生ならではの視点で話ができたら…。

高濱）　高校生ならではの視点で、今の状況は、どんな感じ？

鳥海）　一戸町に住んでいる。盛岡の高校に通うため、6：24 発の電車に乗って、帰りは部活がないと 18：30 に駅に着くが、部活があると 20：30 着とか最終になってしまう。家まで近いが、夜遅いときは母に迎えに来てもらっている。

小さいときは保育園のお迎えなど通じて祖母と一緒に過ごすことが好きだった。高校に通うようになって早く家を出て帰りも遅いため、祖母と話す機会が減ったのが残念だなと思う。こういう機会を通して、祖母にできることがあるならしたいと思う。

高濱）　高校生になって、家庭の協力体制があってこそ、うまくいく例ですね。

近居のメリットとデメリットの話を詳しく教えてほしい。

松尾）　近居のメリットは、保育園のお迎え対応、親の育児の思い出を伝えながら話せること、作法などについては同居だったら、精神的に厳しかったかもしれない。

適度な距離を保つことがよいと感じている。親の子どもへの接し方をみると、親として子どもにその言い方は今はしない方がいいと思うことはあるが、愛情があるからのことと思っている。「そういう視点もあるんだって」と、自分にも言い聞かせている。母として鍛えられている。自分は同居より近居の方がよかったなと思う。

高濱）　意味が深い。最初から適度な距離を保つことがいいと感じた？

松尾）　姉が同居しているため、同じ部屋に物理的には入れない。近くの親戚の家を借りて住んでいる。広さがあったら、産後くらいは同居だったかもしれない。

高濱）　それぞれ苦労していること、お産の前後離れていて久しぶりに一緒だといい時間だったということについて詳しく話してほしい。

古川）　適度な距離は 2 か月ではわからなかった。
今まで母がしてくれていたことは、自分のやり方と違うから、言っていいのか、手を出していいのか、無意識にやっていることが、生活となると対応が難しい。
ママ友からも「帰ると疲れるよ」と聞いていた。父母のリズムもあるから、それを崩してしまうのではないか、24 時間泣いている声がするのも悪いなと。
でもよかったことの方が多かったと思う。母たちはどうだったかな。

高濱）　その後、帰省されたときはどんな感じだったのか？

古川）　2 年前の帰省から、久しぶりに正月に帰った。帰省という形で、、自分が子どもという立場で全面的に甘えられた。母からは特に指摘はなかったが、反発されるから言われないのかもしれない。母は子どもとの遊びが上手だった。紐をくっつけて新体操ごっこをしたり、バスの待ち時間に時間の遊びをしたりしていた。自分だと、静かになるし楽だからついついスマホを見せてしまう。でも母の時代にはスマホはなかったので、時代を重ねてきたことによるものがあるなあと尊敬した。

高濱）　帰省すると、親世代も子ども世代も、それぞれいろいろな刺激を受けている印象を受けた。
同居する経緯などを教えてもらいたい

細田）　暮らすメンバーが決まる前に、家の建築はリスクがあったと思う。
父との同居や嫁姑の関係など、一般的に同居にある問題は、

母がおおらかな面があるので嫁に何か言うことはない。うまくいっている。
子どもを思ってのすれ違いはある。自分は母親、嫁のどっちの味方にもなっちゃいけないと思っている。一緒に住んでいるからこそ、話し合いが鉄則かなと。子どもが生まれてからも協力してもらっている。
家は同じだが玄関のみ一緒。ライフスタイル別々で困った時のみ扉を開けて助けを求める。

高濱）　同居して 1 年過ぎて、7 人暮らしは苦労があるのか？

石川）　同居は 1 年前だが、実は 2 人目、3 人目の孫の産後を見ていた。嫁が沿岸出身で、実家が被災したことと、息子が転勤族だったので、お手伝いしていた。
自分も、いい加減なところがあるから、同居してもいいのかなと思う。

一番に考えるのは、ただ自分がサポートに回ればいいのかなと。孫のためにと言いうよりも。

高濱）　サポートするという考えは、当初からそう思っていたのか、何かきっかけがあったのか？

石川）　一緒に暮らすときには、次男には次男の家族のやり方ができているから、助けて欲しいことを助けてあげるようにすればいいと思った。

高濱）　仕事との兼ね合いはどうか？

石川）　時間を見つければできることなので、それはそれでやっている。障害は感じない。

高濱）　色々なキーワードが出てきた。会場で、聴いてみたいことがある方はいるか？

来場者）　世代で生活リズムや、やり方が違う時はどう思う？

石川）　確かに、違いはあるが、だからこそ自分ができることをしている。やってもらうことはやってもらうこと、割り切るようにしている。

高濱）　やってもらう、割り切ることが、なかなか難しい。それぞれに自分との共通点や違いがある。特に違いは、気がつきやすい。1 つ 2 つ 3 つ…とどんどん増えて、気になってくるのが普通だから、そこをどう工夫していくか、そこが関係性において重要になってくる。

来場者）こんな時、祖父母がいたらと思うことは何か？

古川）　子どもや自分が病気の時。最近だと下の子のイヤイヤ期とか、兄弟間の喧嘩というか、どっちが上か、お母さんに認めてもらうかというところで、お互いを平行に見れない時に助けてほしいと感じる。夫は仕事をしているから、ちょっとしたことで負担をかけたくないと感じている。ちょっと預けるなら身内の方がいいので、将来は同居したいなと感じている。本当は今、助けが欲しい。子が大きくなったら、親を助けていきたいと思う。

来場者）　高校生にとって、祖母はどう変化して、どう感じているのか？

鳥海）　私が小さいときはスポーツもいたしてけれど、今はしいない。強いていうなら、花に水を上げるとか庭に出るくらい。家の中で大きい音がすると祖母が倒れたのではと不安になることもある。いろいろ言われてうざいなと思うが、そう思うのは自分が変わったのかと思う。

来場者）　1 歳の子がいる。将来、両親と同居し 4 世代一緒になる可能性がある。今は週一で遊びに行っているが、気を使う。姉が同居しているとのことだが、うまく生活するポイントはどんなものか？

松尾）　実家は 4 世代。3 歳、2 歳、9 歳の男子がいる。成長に合わせて、家の広さを広げるのは限界がある。女系家族だったから、男の子への耐性がなく、成長の性差を受け止めるには努力が必要なようだ。居間にいるとみんな集まってにぎやかでいいが、静かになりたいとき、大きい音が出る　とき、ぶつかりそうになるのをよけるため、安全なところ、一人になれるところ、居間以外のちょっとした場所が必要だと思う。それぞれが、感情的にならない工夫はいくつあっても困らない。

来場者）　細田さんに質問。仕事して時間が取れないというが、子と触れ合う時はどんなことをしているのか、子育てにどう協力しているのか教えてほしい。

細田）　自慢できることはしていないが、年度末で 9 時 10 時に帰るような状況である。育児休暇を 1 か月取ってみた。生まれてから 6 か月間は東京への単身赴任のため離れていたため、罪悪感があった。意識的にかかわろうと思っている。一対一で関わると 1 日で追いつめられて悲しい気持ちになるが、そのあと懐いてくれて嬉しい。

基調講話に関連して、ゴリラの子育てについて以前テレビで見たのだが、脳はみんなで育てることで発達すること、泣くのは他の人にも見てもらうためだという。一対一での対応には、もともと無理があるんだなと感じた。娘も都合が悪いと祖父母のところに逃げる。それも大事だなと思っている。

高濱）　両親と妻のどちら側にも味方しないということについて、工夫している点は何か。

細田）　うそのない程度に、つじつまを合わせる。どちらの言い分にも、それぞれの良い点も、正しさもある。

高濱）　そういうスタンスは両方に伝わっていると思う。男性は子育てに参加したくても、まだまだいろいろ大変だと思うが、子どもはなつくということに気がつくのはとても大事なこと。
女性より男性の方がどうしても、子育てにかかわる経験が少ない。場数を踏むと、子育ての良さや、子どものことがわかってくる。

高濱）　話を聞いてみて、感じたことはあるか？

鳥海）　子育てや三世代の交流は、自分にとっては、まだ先かなと思っていたが、身近なことで、また地域の一員として何かできることをしたいと思った。将来お母さんになったとき、今日聞いた昭和平成のお母さんの話を踏まえて令和のお母さんとして頑張っていきたい。

石川）　皆さん色々考えていると思うが、同居のいいところもあるのではと思う。孫との、子とのつながりはいろいろな人の協力があって家族。20 歳違う嫁とは、育った環境が違う。絶対あうことはないのだから、互いに歩み寄ればいい。

細田）　こういうとこで話す機会がない。狙って同居をしたわけではない。それぞれの人生でできる人、できない人がいると思うが、子育てはかけがえのない幸せになるもの。祖父母は孫がいると顔が晴れやかになる。縁もゆかりもない中で、ボケ防止にもなっていると思う。
孤立してしまってつらくなるのは不幸だと思っている。家族以外も含めて、それぞれの世代間の交流など、取り組んでいけたらいいのではないかと思っている。

松尾）　親として育児して気がついたことは、妻、親、子どもいろいろな視点が増えたこと。身内だから察してほしいシーンがあるが、それはお互いに一番難しいこと。面倒臭いと思うが言葉として言うのが早い。母と妻での立場の違いによって言葉遣いが違っていることに気が付く。
日々勉強、自分が楽しく心地よく過ごすためには努力が必要だと思う。

古川）　同居したいなと思ったが、パパの立場の気苦労を知った。ここにいる素晴らしい高校生になっていくのだと思うと、初めの社会が家族。喧嘩するけど本音が言えるのも家族だから。

高濱）　短い時間だったけれど、いろいろなものが熟成してきたかなと思っている。いろいろな会をすると答えが欲しい、求める人がいるが、こういうテーマだと答えがない。家族の形・ありようはケースの数ほどある。シンポジウムをきっかけに家族の在り方を振り返ってもらえたら世代間のかかわりがうまくいくためのポイントが今日はたくさん出たのでヒントにしていってくれたらいいと思う。
日本人は以心伝心、言わないことを美徳とする。空気を読むことを重視しがちだが、考えていることを

言葉にしていく。特に感謝を示す。照れずに家族にお礼や「おはよう」を言う。
日本人にとって関係性は重要なこと。改善すること
はして、より良くなったら素晴らしい。
パネリストが率直に話してくれたおかげで実り多
いものになった。

■子育て応援企業・団体による三世代子育て応援イベント

開催日時：令和 2 年 2 月 8 日（土）　10:00～16:00

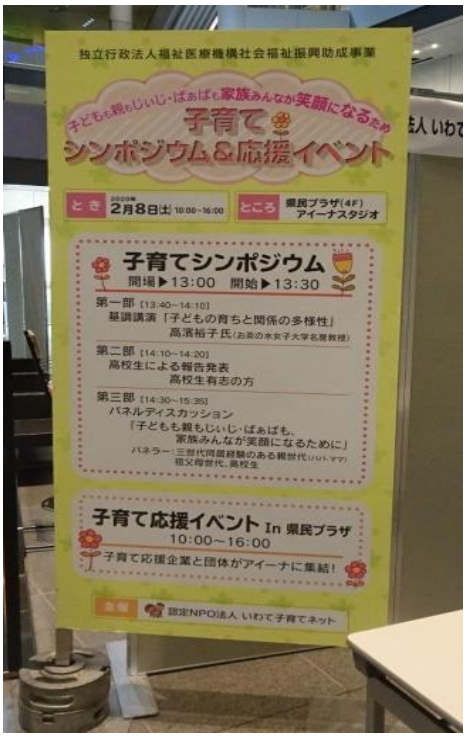
開催場所：いわて県民情報交流センター　アイーナ 4 階　県民プラザ

参加人数：　173 名（事務局 3 名（両川、吉田、三浦）、参加者 170 名、協賛企業 13 社）

協賛企業（敬称略、順不同）

有限会社フォーライフ、江崎グリコ株式会社、D&Ｌｉ株式会社盛岡支社、株式会社八重働工務店、東北電力株式会社岩手支店、株式会社日盛ハウジング（パルコホーム）、株式会社平金商店、ソニー生命保険株式会社、株式会社ニチイ学館盛岡支店、岩手住環境技術研究会、いわて生協　共済事業部・共同購入事業部、株式会社ポーラ岩手ゾーン　ポーラザビューティーイオンモール盛岡南店、株式会社 ECC、NPO 法人だっことおんぶの研究所

子育て応援イベントの様子



受付（いわて子育てネット）

株式会社 ECC

株式会社平金商店

ソニー生命保険株式会社

株式会社日生ハウジング

岩手住環境技術研究会

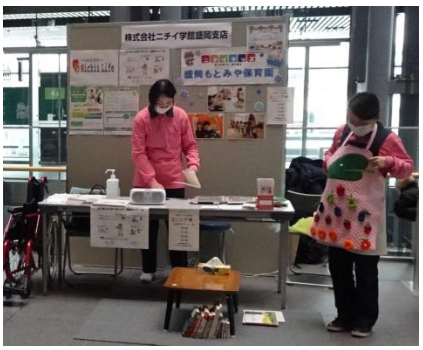
有限会社フォーライフ

NPO 法人だっことおんぶの研究所

株式会社ポーラ岩手ゾーン

江崎グリコ株式会社

株式会社八重働工務店



株式会社ニチイ学館盛岡支店

いわて生協共済事業部・共同購入事業部

D&Li 株式会社盛岡支店

東北電力株式会社岩手支店

＜所感＞

シンポジウムについては、参加者からの質問が上がったこともあり、盛況であったと思う。

開催時期については、もう少し外出しやすい時期が良いという意見がある一方、年度のまとめとしては、この時期が妥当であるとの考えもあり、再考する必要があると感じた。

シンポジウム会場について、マイクの音量を上げてほしいとの希望があったが、施設設備の関係で、音量を上げることができなかった。その旨を伝えたうえで、席の誘導をすればもっとよかった。

託児を行わなかったので、キッズスペースを設けたが、キッズスペースを活用しながら参加する姿が見られたので、今後もそういう配慮をしていきたい。

今回事業趣旨に賛同いただいた 13 社とは今後も、継続的に活動交流していきたい。

イベントブースにはＢＧＭなどを活用して、より楽しい雰囲気を出すなど工夫があったらよいと思った。テレビ局（NHK 盛岡、岩手放送）新聞社（盛岡タイムス）の取材もあり、足を運べなかった人にもシンポジウム＆イベントの開催をアピールできた。

５．成果

■アンケート結果

１．『じぃじもばぁばもね♪家族みんなで子育て講座』

講座名	回収数
初めてママと先輩ママのおはなし会	3
じぃじ・ばぁばの初めて孫育て講座	2
0～1 歳の第１子を育てている家族交流会	6
男性産婦人科医に聞く　初めてパパ講座	4
ママもパパも赤ちゃんもにっこり♪ライフ	6
計	２１

1.　あなたについて教えてください

講座名	男性	女性	未記入
初めてママと先輩ママのおはなし会	1	2	0
じぃじ・ばぁばの初めて孫育て講座	0	2	0
0～1 歳の第１子を育てている家族交流会	2	4	0
男性産婦人科医に聞く　初めてパパ講座	4	0	0
ママもパパも赤ちゃんもにっこり♪ライフ	0	6	0
計	7	１４	0
%	33.3	66.7	0

講座名	１０代	２０代	３０代	４０代	５０代	６０代以上	未記入
初めてママと先輩ママのおはなし会	0	0	3	0	0	0	0
じぃじ・ばぁばの初めて孫育て講座	0	0	0	1	0	1	0
0～1 歳の第１子を育てている家族交流会	0	0	5	1	0	0	0
男性産婦人科医に聞く　初めてパパ講座	0	2	2	0	0	0	0
ママもパパも赤ちゃんもにっこり♪ライフ	0	0	6	0	0	0	0
計	0	2	１６	2	0	1	0
%	0	9.5	76.2	9.5	0	4.8	0

該当するすべてに○をつけてください

講座名	親	祖父母	学生	社会人	行政	その他	未記入
初めてママと先輩ママのおはなし会	3	0	0	0	0	0	0
じぃじ・ばぁばの初めて孫育て講座	1	1	0	0	0	0	0
0～1 歳の第１子を育てている家族交流会	6	0	0	2	0	0	0

男性産婦人科医に聞く 初めてパパ講座	2	0	0	2	0	0	0
ママもパパも赤ちゃんもにっこり♪ライフ	4	0	0	0	0	2＊1	0
計	１６	1	0	4	0	2	0
%	69.6	4.3	0	17.4	0	8.7	0

＊1　妊娠中

2.　講座をどのようにして知りましたか。

	チラシ	新聞記事	ホームページ	クチコミ	その他	未記入
初めてママと先輩ママのおはなし会	0	0	1	2	0	0
じぃじ・ばぁばの初めて孫育て講座	1	0	0	1	0	0
0～1 歳の第 1 子を育てている家族交流会	3	0	0	3	0	0
男性産婦人科医に聞く初めてパパ講座	1	0	0	3	0	0
ママもパパも赤ちゃんもにっこり♪ライフ	4	0	0	2	0	0
計	9	0	1	１１	0	0
%	42.9	0	4.8	52.4	0	0

3.　「家族みんなで子育て講座」を受講して子育てや子育て支援に参考になりましたか。

	大変参考になった	すこし参考になった	普通	あまり参考にならなかった	全く参考にならなかった	未記入
初めてママと先輩ママのおはなし会	2	0	0	0	0	1
じぃじ・ばぁばの初めて孫育て講座	2	0	0	0	0	0
0～1 歳の第 1 子を育てている家族交流会	2	3	0	0	0	1
男性産婦人科医に聞く初めてパパ講座	4	0	0	0	0	0
ママもパパも赤ちゃんもにっこり♪ライフ	5	1	0	0	0	0
計	１５	4	0	0	0	2
%	71.4	19.0	0	0	0	9.5

4.　本日の内容で参考になったことは何ですか。

初めてママと先輩ママのおはなし会	たくさんの方とお話しすること
じぃじ・ばぁばの初めて孫育て講座	詳しく教えていただいた 常温ミルク
0～1 歳の第 1 子を育てている家族交流会	冬の過ごし方、自然遊び、遊び方のアイデア 遊び方、作ったり、インクの使い方など 冬の着せすぎは汗をかいて風邪のもとになること 冬の過ごし方、ふれあい遊び 身体を使った遊びの重要性

男性産婦人科医に聞く初めてパパ講座	先生の話やお母さんの気持ちを知ることができてよかった 妻の悩みなど 博報堂の調査結果
ママもパパも赤ちゃんもにっこり♪ライフ	献立の立て方 サバの料理がすごかったです 最近子供が食べてくれなかったニンジンを食べてくれた 簡単でもおいしいご飯が作れることがとても参考になった 夫への伝え方、お願いの仕方の工夫が大切だなと思いました 「ならねばならない」という考えを捨てるという気持ちが大切だな、と。 片付けが苦手な方に、片付けレベルを合わせる 脳の性差、利き脳、収納のコツ

5.　子育てや、子育て支援についてどんな情報がもっと欲しいですか。

初めてママと先輩ママのおはなし会	睡眠について
じぃじ・ばぁばの初めて孫育て講座	（なし）
0～1 歳の第 1 子を育てている家族交流会	遊び方のアイデア（家での遊び方がマンネリなので） 0 歳児向けのイベント 乳児が遊べる場所 未就園児の遊び場、冬場の過ごし方、転入者へのフォロー
男性産婦人科医に聞く初めてパパ講座	お母さんのサポートの仕方 遊び場、イベント等の情報
ママもパパも赤ちゃんもにっこり♪ライフ	食事、トイレトレーニング、遊びなど、なんでも情報が欲しいです イヤイヤ期の過ごし方 こどもとのふれあい遊び（手遊び、読み聞かせ、バルーンなど） 今日のようなイベント情報 託児サービス

6.　「家族みんなで子育て講座」を受講してのご意見ご感想をお聞かせください。
　特になし

２．子どもも親もじぃじもばぁばも笑顔になるための三世代子育てシンポジウム＆応援イベント

■参加者回収数：３３件

1.　あなたについて教えてください。

性別	男性	女性	未記入
人数	１０	１８	4
%	31.3	56.3	12.5

年代	10 代	20 代	30 代	40 代	50 代	60 歳以上	未記入
人数	8	0	１１	2	3	7	1
%	25.0	0	34.4	6.3	9.4	21.9	3.1

該当するすべてに○をつけてください

	親	祖父母	学生	社会人	行政	その他	未記入
人数	１５	5	8	１１	2	1	1
%	34.9	11.6	18.6	25.6	4.7	2.3	2.3

その他内訳：保育者養成

2.　シンポジウム・応援イベントをどのようにして知りましたか。

	チラシ	新聞記事	ホームページ	クチコミ	その他	未記入
人数	１０	0	2	１５	4	2
%	30.3	0	6.1	45.5	12.1	6.1

その他内訳

・通りかかった（4 件）

3.　「シンポジウム・イベント」を受講して子育てや子育て支援に参考になりましたか。

	大変参考になった	すこし参考になった	普通	あまり参考にならなかった	全く参考にならなかった	未記入
シンポジウム	１４	6	2	0	0	9
%	45.2	19.4	6.5	0	0	29.0
イベント	8	8	4	0	0	１１
%	25.8	25.8	12.9	0	0	35.5

4.　参考になったものは何ですか。（複数回答可）

シンポジウム	基調講演	高校生発表	パネルディスカッション	未記入
人数	１９	9	１５	6
%	38.8	18.4	30.6	12.2

応援イベント

人数	3	2	0	0	0	0	1	2	0	1	4	6	1	1
%	7.9	5.3	0	0	0	0	2.6	5.3	0	2.6	10.5	15.8	2.6	2.6

未記入　17（44.7%）

5.　子育てや子育て支援について、どんな情報や企業とのコラボが欲しいですか。

・ヤクルト(コラボ)
・地域の諸団体とのコラボ
・育児用品
・簡単生活養生講座
・私の孫は遠くにいるので、支援がなかなかできないので、地域の方で子育てが大変な方に支援ができればいいのかなと思いました。

6.　シンポジウム・応援イベントに関する、ご意見・ご感想、ご質問などをお聞かせください。

・参加者は少ない感じであったが、このような事業は数のみを評価とすべきではない。継続していくことでよい影響が出るので単年評価はしないでほしい
・多くのデータから考えられる内容が勉強になりました
・良い経験をすることができました。ありがとうございました。
・貴重な体験となりました。ありがとうございました。
・たまたまチラシを目にし参加しました。興味深く拝聴しました
・いい女子校生でした
・祖父母の立場で孫育てをサポートしていけるといいなと思いましたありがとうございました
・複数人のパネラーさんより多種多様の話・体験が聞けて良かった
・今回初めて参加させていただきありがとうございました。
・多様性を感じるイベントで、パネルディスカッションでとても興味深く聞くことができました。ありがとうございました。

■イベント参加企業回答数：14 社中 10 社

1．参加していかがでしたか？

項目	大変満足している	満足している	普通	あまり満足していない	全く満足していない
件数	0	3	7	0	0
%	0	30	70	0	0

2．次のことについて気が付いたことはありますか。

・開催場所について

良いと思う。もしくは川徳やイオンなども検討しては？
少し寒かったです

問題なし

交通の便や場所もいいと思います

駅近で車利用の場合、駐車場代がかかるのは気になるところ。天候に左右されない屋内での開催は小さなお子さん連れでも安心なのでよいと思う（トイレ等含め)。

・会場設営について

シンポジウムのところの音声が小さい感じ

講演内容が聞こえない

入口にイベントをやっている案内をしても良かったと感じます。

いろんな業種がありいいと思います

広く使えるのは良かったが、間延び感あり。もっと隣同士近くても良かったかも（統一感)。目に入ってくる情報が多い？

・参加費について

良いです

問題ない

・シンポジウムの内容

じゃじゃじゃ TV（県内 TV 局情報発信番組）などに取り上げてもらったら良かった。

講師の方を名の知れる有名な方でしたら聞いてみたい人が増えるかも

参加者は聞けないので、アフターフォロー録画上映等あるとうれしい。

・イベントの内容

ブース集客が課題

キャラクターショーがあったら来客が増えると思います

時期ですが３~４月の方が天候にも左右されずいいのでは？

子連れだと楽しめること（ワークショップ、フリマ、古着交換会、飲食、菓子パン販売とか）があると行きたい！と思いやすいかも。

・広報

集客はやはり難しいですね。チラシを数十枚巻きましたが来たのは一組だけでした。

もう少し告知をしてもよいかもしれません

・連絡がやり取りについて

特にありません

とてもやりやすかったです

声かけがあり、特に困ることはなかったです

３．その他気が付いたことを教えてください

日ごろの利用者の方々には、周知していただけたもんですか？

開催時期が春や秋など、出かけやすい時期だとよい

キャラクターショーとかあるとうれしいです

特にありません

今後も本イベントが成長していけるよう微力ながらお手伝いさせていただきます。

来場者が少なかった。冬場は荷物も多くなるし出かけることを控えやすいので時期の見直し（新型コロナ、インフルエンザ等本人が風邪をひているということもありうる）チラシを置くスペースが別にあったら、時間のない方も情報を得やすいかもしれないと思った。どんどんチャレンジしたい！今回 1 回目とのことで、より良くなるイベントになると思います。学びあるシンポジウムも楽しみです。

４．また参加したいと思いますか？

項目	ぜひ参加したい	参加したい	参加したくない
件数	3	7	0
%	30	70	0

■自己評価

①対支援対象者に対し、意識向上、子育てに関する技術・知識の習得や家族内でのコミュニケーションの充実に関する情報提供を行うことができた。

②対関係機関に対し、新たな連携や活動の経験を蓄積することができた。

③対地域・社会に対し、多世代での子育てのヒントを提供することで、子育て家族の安心や、子育てへの興味関心が増加する機運が向上した。

④多くの企業との連携ができた。

⑤シンポジウムを通して、祖父母の子ども世代の子育てに関する意識変化が見られた。

■今後の展望

事業の趣旨に賛同いただいた子育て応援企業との交流を続け、集客の難しいパパ向け講座を企業への出前講座として実現させたり、今回手薄だった地域コミュニティにも拡張させた事業を展開したい。今回参加いただいた方には、今後先輩ママとして、講座に協力していただけるよう、長期的な関わりを持っていきたい。連携体制を構築・強化することで、出産、妊娠、子育て、そこを支える多世代のネットワークを地域の中に定着させたい。

Ⅳ　終わりに

「じぃじもばぁばもね♪家族みんなの子育て応援」事業を終えて、初めての赤ちゃんを迎えるおばあちゃんの様子、食事や家事などの生活感、高校生の子育てや結婚観、パパやおじいちゃん、おばあちゃんのかかわり方などそれぞれの家庭の俯瞰した様子が見えてきました。日頃の子育て親子、核家族の家庭の視点から考えるとなんと賑わった人たちの交わりでしょう。そう、人は群れでの共同生活だったのに。多世代のかかわりで生まれてからの長い人生の広がりが見え、雑多の中に厄介もあるでしょうがやさしさと豊かさを孕み懐かしさを感じる事業でした。

三世代同居の実践者も勝手にイメージしていた窮屈さよりも、程よい距離感とお互いを認め合うスマートさで現代人のかかわりの成熟したモデルを見たような気がします。

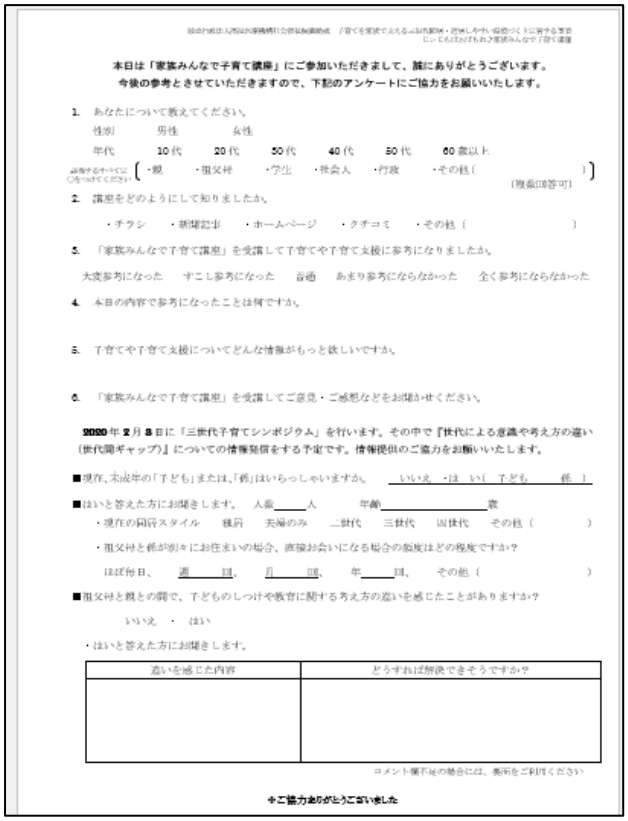
もし、参加者の中に三世代同居を考えている人がいらしたならば背中を押すシンポジウムになったと期待したい。

最後にご協力いただいた講師の皆様、各機関、企業の皆様に心から御礼申し上げます。

認定 NPO 法人いわて子育てネット
理事長　村井軍一

Ⅴ　資料

アンケート



独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成　子育てを家族で支える三世代同居・近居しやすい環境づくりに資する事業
じぃじもばぁばもね♪家族みんなの子育て講座

本日は「家族みんなで子育て講座」にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。
今後の参考とさせていただきますので、下記のアンケートにご協力をお願いいたします。

1. あなたについて教えてください。
   性別　男性　女性
   年代　10 代　20 代　50 代　40 代　50 代　60 歳以上
   該当するものに○をつけてください。［・親　・祖父母　・学生　・社会人　・行政　・その他（　　）］（複数回答可）
2. 講座をどのようにして知りましたか。
   ・チラシ　・新聞記事　・ホームページ　・クチコミ　・その他（　　）
3. 「家族みんなで子育て講座」を受講して子育てや子育て支援に参考になりましたか。
   大変参考になった　すこし参考になった　普通　あまり参考にならなかった　全く参考にならなかった
4. 本日の内容で参考になったことは何ですか。
5. 子育てや子育て支援についてどんな情報がもっと欲しいですか。
6. 「家族みんなで子育て講座」を受講してご意見・ご感想などをお聞かせください。

2020 年 2 月 8 日に『三世代子育てシンポジウム』を行います。その中で『世代による意識や考え方の違い（世代間ギャップ）』についての情報発信をする予定です。情報提供のご協力をお願いいたします。

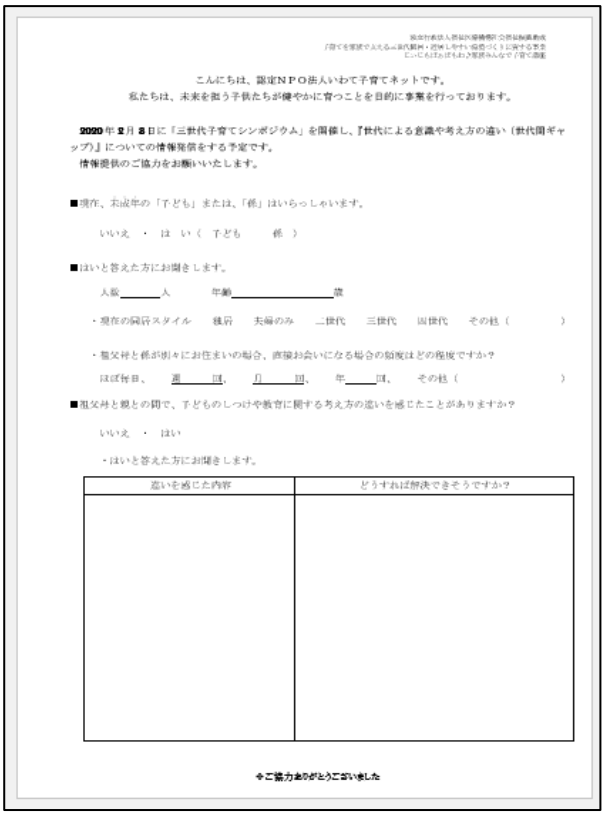
■現在、未成年の「子ども」または、「孫」はいらっしゃいますか。　いいえ　・はい（子ども　孫）
■はいと答えた方にお聞きします。　人数＿＿人　年齢＿＿＿＿＿＿歳
・現在の同居スタイル　独居　夫婦のみ　二世代　三世代　四世代　その他（　　）
・祖父母と孫が別々にお住まいの場合、直接お会いになる場合の頻度はどの程度ですか？
ほぼ毎日、　週＿＿回、　月＿＿回、　年＿＿回、　その他（　　）
■祖父母と親との間で、子どものしつけや教育に関する考え方の違いを感じたことがありますか？
いいえ　・　はい
・はいと答えた方にお聞きします。

違いを感じた内容	どうすれば解決できそうですか？

コメント欄不足の場合には、裏面をご利用ください

＊ご協力ありがとうございました

＜講座参加者用アンケート＞



独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成
子育てを家族で支える三世代同居・近居しやすい環境づくりに資する事業
じぃじもばぁばもね♪家族みんなの子育て講座

こんにちは、認定ＮＰＯ法人いわて子育てネットです。
私たちは、未来を担う子供たちが健やかに育つことを目的に事業を行っております。

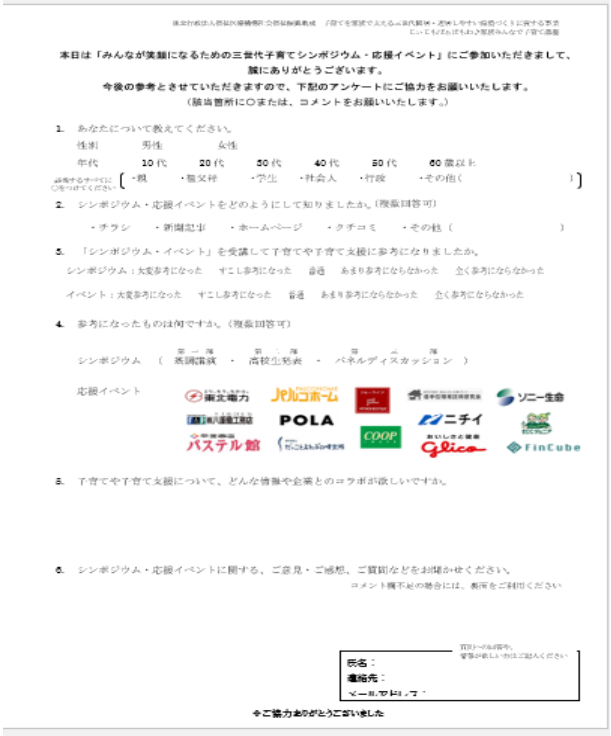
2020 年 2 月 8 日に『三世代子育てシンポジウム』を開催し、『世代による意識や考え方の違い（世代間ギャップ）』についての情報発信をする予定です。
情報提供のご協力をお願いいたします。

■現在、未成年の「子ども」または、「孫」はいらっしゃいます。
いいえ　・　はい（子ども　孫）
■はいと答えた方にお聞きします。
人数＿＿人　年齢＿＿＿＿＿＿歳
・現在の同居スタイル　独居　夫婦のみ　二世代　三世代　四世代　その他（　　）
・祖父母と孫が別々にお住まいの場合、直接お会いになる場合の頻度はどの程度ですか？
ほぼ毎日、　週＿＿回、　月＿＿回、　年＿＿回、　その他（　　）
■祖父母と親との間で、子どものしつけや教育に関する考え方の違いを感じたことがありますか？
いいえ　・　はい
・はいと答えた方にお聞きします。

違いを感じた内容	どうすれば解決できそうですか？

＊ご協力ありがとうございました

＜市民用アンケート＞



独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成　子育てを家族で支える三世代同居・近居しやすい環境づくりに資する事業
じぃじもばぁばもね♪家族みんなの子育て講座

本日は「みんなが笑顔になるための三世代子育てシンポジウム・応援イベント」にご参加いただきまして、誠にありがとうございます。
今後の参考とさせていただきますので、下記のアンケートにご協力をお願いいたします。
（該当箇所に○または、コメントをお願いいたします。）

1. あなたについて教えてください。
   性別　男性　女性
   年代　10 代　20 代　50 代　40 代　50 代　60 歳以上
   該当するものに○をつけてください。［・親　・祖父母　・学生　・社会人　・行政　・その他（　　）］
2. シンポジウム・応援イベントをどのようにして知りましたか。（複数回答可）
   ・チラシ　・新聞記事　・ホームページ　・クチコミ　・その他（　　）
3. 「シンポジウム・イベント」を受講して子育てや子育て支援に参考になりましたか。
   シンポジウム：大変参考になった　すこし参考になった　普通　あまり参考にならなかった　全く参考にならなった
   イベント：大変参考になった　すこし参考になった　普通　あまり参考にならなかった　全く参考にならなかった
4. 参考になったものは何ですか。（複数回答可）
   シンポジウム　（第一部 基調講演　・　第二部 高校生発表　・　第三部 パネルディスカッション）
   応援イベント　東北電力　Jパルコホーム　ソニー生命　POLA　ニチイ　パステル館　COOP　Glico　FinCube
5. 子育てや子育て支援について、どんな情報や企業とのコラボが欲しいですか。
6. シンポジウム・応援イベントに関する、ご意見・ご感想、ご質問などをお聞かせください。
   コメント欄不足の場合には、裏面をご利用ください

個人データの利用や、管理が欲しいかはご記入ください
氏名：
連絡先：
メールアドレス：

＊ご協力ありがとうございました

＜シンポジウム・イベント参加者用アンケート＞

広報資料

独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成
子育てを家族で支える三世代同居・近居しやすい環境づくりに資する事業

じぃじもばぁばもね♪

家族みんなで子育て講座　開講！

この講座では、赤ちゃんが生まれる前にぜひ受講していただきたい「産前講座」と、
赤ちゃんが生まれたら家族みんなで来て欲しい「お楽しみ会」を実施します。

漠然とした不安を解消♪
お互いを知るきっかけ作り「産前講座」

A じぃじ・ばぁばの 初めて孫育て講座
対象：祖父母世代 10組
・日時：10月 2日（水）10:30～12:00　沐浴体験
　　11月27日（水）10:30～12:00　今どきのミルク事情
・場所：もりおか子育て応援プラザ ma*mall
・参加費：300円/組
・※沐浴体験があるので動きやすい服装でおこしください

B 男性産婦人科医に聞く 初めてパパ講座
対象：お子様が誕生予定の男性 各15人
・～ママの心と体は出産前後で大変化！僕に何ができる？？～
・日時：10月20日（日）、令和２年1月26日（日）10:30～12:00
・場所：アイーナ（いわて県民情報交流センター）6階 10/20 控室1.2
　　1/26 団体活動室３
・参加費：300円

C 初めてママと先輩ママのおはなし会
対象：妊娠・出産予定の女性 各10人
（じぃじばぁばも参加可）
・日時：　9月24日（火）、11月26日（火）　10:00～11:30
・場所：もりおか子育て応援プラザ ma*mall
・参加費：無料

D ママもパパも赤ちゃんもにっこり♪ライフ
対象：育児中、または誕生予定の夫婦 各10組
・「ラクうまごはん」と「ちゃちゃっと家事」のコツ、ゲット！
・日時：ごはん → 11月9日（土）　10:30～12:00　試食あり
　　家事 → 11月9日（土）　13:30～15:00　ゆう診断あり
・場所：アイーナ（いわて県民情報交流センター）6階 団体活動室４
・参加費：300円

たくさんの刺激を受けよう！
たくさん笑おう「産後お楽しみ会」

E 家族交流会
対象：0～1歳のお子様を育てている家族
（祖父母の参加も可）各10組
協賛：青少年活動交流センター
（いわて親子フェスティバル）
・～赤ちゃんのいる生活 ごきげんいかが？～
・日時：10月14日（土）①10:30～11:10　②14:00～14:40
・場所：アイーナ（いわて県民情報交流センター）6F団体活動室４
・参加費：無料

三世代子育てシンポジウム＆イベント　～三世代家族での子育てって、本当にいいの？～

日時：　2月8日（土）　シンポジウム 13:30～15:45
　　イベント　10:00～16:00
場所：アイーナ（いわて県民情報交流センター）４階
対　象：興味のある方
参加費：無料
最新情報をゲット

【申し込み・問い合わせ】認定 NPO 法人いわて子育てネット
TEL：019-652-2910　E-mail：info@iwate-kosodate.com
FAX：019-652-9077
岩手県盛岡市菜園２丁目２番 19 号　十九番館
申し込み締め切り：各講座開催７日前まで。
氏名、連絡先、参加人数をお知らせください

独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成
子育てを家族で支える三世代同居・近居しやすい環境づくりに資する事業

講座によって会場が異なります

◆じぃじ・ばぁばの初めて孫育て講座：Map①
ミルクの溶き方、液体ミルクなど、沐浴やスキンケア方法など、最新の育児事情をお伝えします。
沐浴体験もあるので動きやすい服装でお越しください。
講師：高見　静子氏（助産師）　江崎グリコ（株）子育てアドバイザー

◇男性産婦人科医に聞く 初めてパパ講座～ママの心と体は出産前後で大変化！僕に何ができる？？～：Map②
男性産婦人科医から、出産前後のママの体と心の変化をお話してもらい、パパは何をしたらいいのか
一緒に考える、おはなしカフェタイムです。
講師・協力：村井富一氏（村井産婦人科院長）、先輩パパ

◆初めてママと先輩ママのおはなし会：Map①
出産、育児、夫婦関係などの不安やその解消方法など、気になるアレコレを聞いたり、先輩ママが
何気なくしている赤ちゃんのお世話を身近で見ながら、出産後の生活を具体的にイメージします。
講師・協力：下川玉枝氏他（助産師）、0 歳児のママサロン参加者の先輩ママとその赤ちゃん

■ママもパパも赤ちゃんもにっこり♪ライフ　～ラクうまごはんとちゃちゃっと家事のコツゲット！～：Map②
時短料理と時短家事術を体験しながら、出産・子育ての生活をイメージしてみましょう。
パパは妊婦体験ジャケットを着用しての疑似ママ体験できます♪（託児はありませんが、お子様は同室で参加可）
講師・協力：盛岡市子育て相談包括支援センター、小豆嶋祥子氏（管理栄養士）岩舘さゆり氏（ライフオーガナイザー）

◆家族交流会　～赤ちゃんのいる生活 ごきげんいかが？～：Map②
保育士による手遊びと読み聞かせと、出産の思い出、これからの子育てのおはなし、いっぱい笑って
お話して楽しみましょう。※講座託児はありません。
講師・協力：子育て世代包括支援センター、保育士

★シンポジウム＆イベント　～三世代家族での子育てって、本当にいいの？～：Map ②
今の子育て事情、ライフスタイル、多世代での子育てが子どもに与える影響について、お話しましょう。
イベントでは多世代にちなんだ体験、出店をします。
講師・協力：高濱裕子氏（お茶の水女子大学名誉教授）、盛岡市子育て世代包括支援センター、学生有志、
イベント出店企業・団体

Map①

Map②

シンポジウムイベント会場
アイーナ４階

【申し込み】TEL：019-652-2910　E-mail：info@iwate-kosodate.com
氏名、連絡先、参加人数をお知らせください
申し込み締め切りは、各講座開催７日前までとなります。
認定 NPO 法人いわて子育てネット
岩手県盛岡市菜園２丁目２番 19 号　十九番館

独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成
子育てを家族で支える三世代同居・近居しやすい環境づくりに資する事業
じぃじもばぁばもね♪家族みんなで子育て講座

初めてママと先輩ママのお話会

9月24日（火）＆ 11月26日（火）

10：00～11：30

参加費無料

出産、育児、夫婦関係・・・、
気になるアレコレを助産師さんや先輩に聞いてみよう！
育児を身近で見学しながら、出産後の生活をイメージしてみませんか？

参加資格：第１子が誕生予定の女性　10名
活動場所：もりおか子育て応援プラザ ma*mall

＜スケジュール予定＞
10:00～　助産師さんのお話
10:45～　ママサロン見学
11:15～　交流会

【問い合わせ・申し込み】
TEL：019-652-2910
E-mail：info@iwate-kosodate.com
認定NPO法人いわて子育てネット
岩手県盛岡市菜園2丁目2番19号　十九番館
FAX:019-652-9077
申し込みの際は、①氏名　②連絡先　をお知らせください

独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成
子育てを家族で支える三世代同居・近居しやすい環境づくりに資する事業
じぃじもばぁばもね♪家族みんなで子育て講座

じぃじ・ばぁばの初めて孫育て講座

10月２日（水）＆ 11月27日（水）

沐浴体験　　今どきのミルク事情
講師：高見静子氏（助産師）　　協力：江崎グリコ株式会社

両日 10：30～12：00

スキンケア、ミルク等、
最新子育てツールについて、ご紹介します
※10/2は沐浴体験があるので、動きやすい服装でおこしください

参加資格：初孫が誕生する祖父母世代　10組（2人目以降のお孫様も大歓迎！）
活動場所：もりおか子育て応援プラザ ma*mall
参加費：300円／組

【問い合わせ・申し込み】　認定NPO法人いわて子育てネット
TEL：019-652-2910
E-mail：info@iwate-kosodate.com
岩手県盛岡市菜園2丁目2番19号　十九番館
FAX:019-652-9077
申し込みの際は、①氏名　②連絡先　をお知らせください

いわて親子フェスティバルin アイーナ
10月14日
10:00 16:00
工作タイム
復興バザー
キッズカーニバル Kids Carnival
ミニライブ・パフォーマンス
つくろうコーナー
ボードゲーム
ワークショップ いわて子どもの森
おとな～るラボ
センサーで遊ぼう!
オリジナル缶バッチを作ろう!
ちゃくちゃくアート
こどもとあるあんがくげき
親子でおそぼろコーナー
記憶力でお絵描き
もりのうち子どもひろば
ミニライブ・パフォーマンス
キッズランド Kids Land
アイーナでお祭り大会!
ミニ縁日車
くるまにまさと工作ショウ
くるまにまさと工作教室
START

独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成
子育てを家族で支えるこ世代同居・近居しやすい環境づくりに資する事業
じぃじもばぁばもね♪家族みんなの子育て応援事業
ママとパパも赤ちゃんも
にっこり♪ライフ
2019年11月9日（土）
「ラクうまごはん」＆「ちゃちゃっと家事」
10：30～12：00
13：30～15：00
講師：小豆嶋　祥子氏（管理栄養士）
講師：岩舘さゆり氏（ライフオーガナイザー）
午前中は料理、午後は家事。
時短の極意を体験して出産後の生活をイメージしてみませんか？
妊婦体験ジャケットを着用体験できます。
参加資格：出産予定、または子育て中の夫婦　10人
（託児はありませんが、同室で過ごすことは可能です）
活動場所：いわて県民情報交流センターアイーナ6階　団体活動室4
参加費：1講座300円／組　（午前午後両方参加の場合は600円／組）
【問い合わせ・申し込み】
認定NPO法人いわて子育てネット
TEL：019-652-2910
E-mail：info@iwate-kosodate.com
申し込みの際は、①氏名　②連絡先　をお知らせください

独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成
子育てを家族で支えるこ世代同居・近居しやすい環境づくりに資する事業
じぃじもばぁばもね♪家族みんなで子育て講座
ママの心と身体は出産前後で大変化！？
僕に何が出来る？
男性産婦人科医に聞く初めてパパ講座
10月20日(日)　＆　令和2年1月26日(日)
10：30～12：00
出産前後のママの心と身体の変化について知りながら、
気になるアレコレを先輩に聞いてみよう！
参加資格：お子様が誕生予定の男性　各15人
活動場所：10月20日　いわて県民情報交流センターアイーナ6階　控室1.2
1月26日　いわて県民情報交流センターアイーナ6階　団体活動室3
参加費：300円／回
アドバイザー
村井軍一先生
（村井産婦人科院長）
【問い合わせ・申し込み】
認定NPO法人いわて子育てネット
TEL：019-652-2910
E-mail：info@iwate-kosodate.com
申し込みの際は、①氏名　②連絡先　をお知らせください

独立行政法人福祉医療機構社会福祉振興助成
子育てを家族で支える三世代同居・近居しやすい環境づくりに資する事業
じぃじもばぁばもね♪家族みんなの子育て応援事業
結婚、仕事、ライフプラン
妊娠、出産、子育てのキモチ
学生リポーター募集中
自分らしさ発見
ワークショップ開講！
ワークショップを通じて、生き方や子育てを
いろんな視点で取材する、学生リポーターを募集しています。
少しだけ「未来のこと」体験してみませんか？
参加資格：生き方、子育てに興味のある学生の方
集合場所：アイーナ６Ｆ　子育てサポートセンター
参 加 費：無料
サポーター：いわて子育てネットスタッフ（保健師・保育士、等）
12月7日（土）13:00～14:30
初回ワークショップ
・ワークショップのほか、今後の日程、方法などを話し合います。
2回目以降は参加者間で調整
12月～1月：調査・集計
・調査
・発表資料作成
2020年2月　：調査発表
・シンポジウム：１回
【問い合わせ・申し込み】　認定NPO法人いわて子育てネット
TEL：019-652-2910　E-mail：info@iwate-kosodate.com
申し込みの際は、①氏名　②連絡先　をお知らせください
岩手県盛岡市菜園2丁目2番19号 十九番館　FAX:019-652-9077

子どもも親もじいじ・ばぁばも家族みんなが笑顔になるため
子育て シンポジウム＆応援イベント
2020年２月８日（土）会場 いわて県民情報交流センター アイーナ４階
子どもが豊かに育つために、多くの人たちに関わって欲しい。そのような中で、祖父母世代はどのように関わっていけばいいのか考えてみませんか？
子育てシンポジウム
申し込み不要 参加費無料
13:30～15:45 in アイーナスタジオ
13:00 開場、13:30 開始
第一部　基調講演「子どもの育ちと関係の多様性」
13:40～14:10
高濱裕子氏（お茶の水女子大学名誉教授）
多様な関わりの中で子どもはどう育つのか、成長とともに変化する関係性（家族、地域など）について、「発達心理学」と「保育学」の観点からお話いただきます。
第二部　高校生による報告発表 高校生有志の方
14:10～14:20
将来親世代になるであろう高校生に、現在子育て中のお母さんに聞き取り調査を実施。その結果とあわせて、自分たちの祖父母世代との関係も紹介していただきます。
第三部　パネルディスカッション
14:30～15:35
「子どもも親もじいじ・ばぁばも、家族みんなが笑顔になるために」
パネラー：三世代同居経験のある親世代（パパ・ママ）、祖父母世代、高校生
親世代、祖父母世代、高校生らが集まっての座談会。
家族での楽しみや迷いについて、様々な体験談を語り合いながら明日へのヒントにしませんか？皆様にご協力いただいたアンケートの結果も発表！！
事業の趣旨に賛同いただいた、
子育て応援企業と団体がアイーナに集結！
協賛企業（敬称略、順不同）
有限会社フォーライフ、株式会社八重樹工務店、東北電力株式会社岩手支店、株式会社 FinCube、株式会社ニチイ学館盛岡支店、株式会社日盛ハウジング（パルコホーム）、平金商店パステル館、ソニー生命保険株式会社、いわて生協 共済推進部・共同購入事業部、株式会社ポーラ岩手ゾーン ポーラザビューティーイオンモール盛岡南店、株式会社 ECC、NPO法人 だっことおんぶの研究所、岩手住環境技術研究会、江崎グリコ株式会社、
10:00～16:00 応援イベント in 県民プラザ
東北電力
パルコホーム
COOP
ソニー生命
パステル館
POLA
ニチイ
FinCube
Glico
<問い合わせ>　認定NPO法人いわて子育てネット
TEL：019-652-2910
Email：info@iwate-kosodate.com

＜報道記録＞

IBC岩手放送　ニュース　テレビ　番組表　ラジオ　番組表

ニュース

Facebookに移動する
Facebookでローカルなイベントやグループを見つけよ

女子高生も参加　子育てシンポ＆応援イベント／岩手・盛岡市　2020年02月08日 17:50 更新

子どもたちが健やかに育つために必要なことを考えるイベントが、岩手県盛岡で開かれました。

このイベントは盛岡のＮＰＯ法人「いわて子育てネット」が初めて開いたものです。会場には１４の企業と団体がブースを設け、必要な分だけ温めて食べさせられる冷凍離乳食など子育て応援グッズを紹介。「三世代での子育て」をテーマにシンポジウムも行われ、女子高校生が子育て中の母親にアンケート調査した結果が紹介されました。すると母親のおよそ半数がしつけや教育に関して、祖父母世代と考え方の違いを感じていたということです。女子高校生たちはいかにしてそのギャップを埋めるかなど、より良い環境を探していきたいと話していました。

NHK NEWS WEB　2020年（令和2年）2月10日 月曜日

岩手 NEWS WEB

親と祖父母の育児を考えるシンポ

02月08日　19時11分

共働きの家庭が増える中、どのように祖父母の協力を得ながら育児を行っていくべきか考えてもらうシンポジウムが盛岡市で開かれました。

このシンポジウムは共働きで育児にかける時間が限られる親に代わって、孫の育児をする祖父母が増えるなか、その関わり方について考えてもらおうと盛岡市のＮＰＯが開きました。
イベントでは、祖父母世代、親世代、そして高校生と３世代の代表がパネルディスカッションで体験談を紹介しました。
このうち３世代で同居する「祖父母世代」の女性は「息子にも家庭の考え方がある。助けて欲しいと言われたときだけ手を差し伸べるべきだ」と述べ、過剰に干渉しないことが家族円満の秘けつだと説明しました。
また、両親と同居する「親世代」の男性は「妻と親の考え方がぶつかるときはどちらの味方もしない。話し合いで解決するよう促していく」と述べ、仲裁役に徹することを心がけていると話していました。
会場では、子育て支援のサービスを紹介するコーナーも設けられ、腰や肩に負担のかからない「おんぶひも」の体験をする親子がいたり、災害で断水したときにも使える乳児用の液体ミルクが紹介されたりしていました。

全国のニュ

令和2年（2020）2月10日（月）
Iwanichi Online　岩手日日新聞社　カートを見る

コラム　新着コンテンツ　地域情報　ライブカメラ　いわにちコレクション

負担少なく優しく抱っこ　盛岡・子育て応援イベント

県内外　2020年2月9日付　印刷

子育て応援イベントで菊地さん（右）からへこおびを使った抱っこの方法を教わる母親

認定ＮＰＯ法人いわて子育てネットが主催する「子育てシンポジウム」は８日、盛岡市内で初めて開かれた。心地よい抱っこの方法など、企業や団体が育児に関する情報を発信したほか、基調講演などを通じて子育てを家族で支える環境づくりの大切さを伝えた。

独立行政法人福祉医療機構の助成を受けて開催。子育て応援イベントと、多世代による子育てをテーマにした基調講演などを繰り広げた。

応援イベントでは、県内外の１４企業・団体が各ブースで子育てや三世代同居に関するパネル展示、ワークショップを実施。三世代住宅、幼児食などのＰＲのほか、英語レッスン体験などのブースが設けられた。

このうちＮＰＯ法人だっことおんぶの研究所（静岡市）のブースでは、いわてベビーウェアリングコンシェルジュ第１号の菊地賀子さん（３８）＝盛岡市＝が、長さ４・５メートルの１枚布「へこおび」やリングに布を通した「スリング」を活用し、母親と乳幼児がぴったりと密着する抱っこやおんぶを伝授。へこおびの結び方を教わり、実際に子供を抱っこした畑澤美優さん（３２）＝同市＝は「肩への負担が少なくて快適。赤ちゃんがくっついているので安心感もある」と効果を実感していた。菊地さんは「こんな道具もあるというのを紹介することで、抱っこやおんぶの不安を解消したい。体験することで選択肢を広げたい」と語った。

このほか、高校生と祖父母世代、親世代によるパネルディスカッションも行われ、子供が豊かに育つための各世代の関わり方について意見を交わした。